

# リアホサ

パッカー会長の  
最後の証, 10ページ

教師の皆さんへ——  
より良い質問, より良い学び, 20ページ

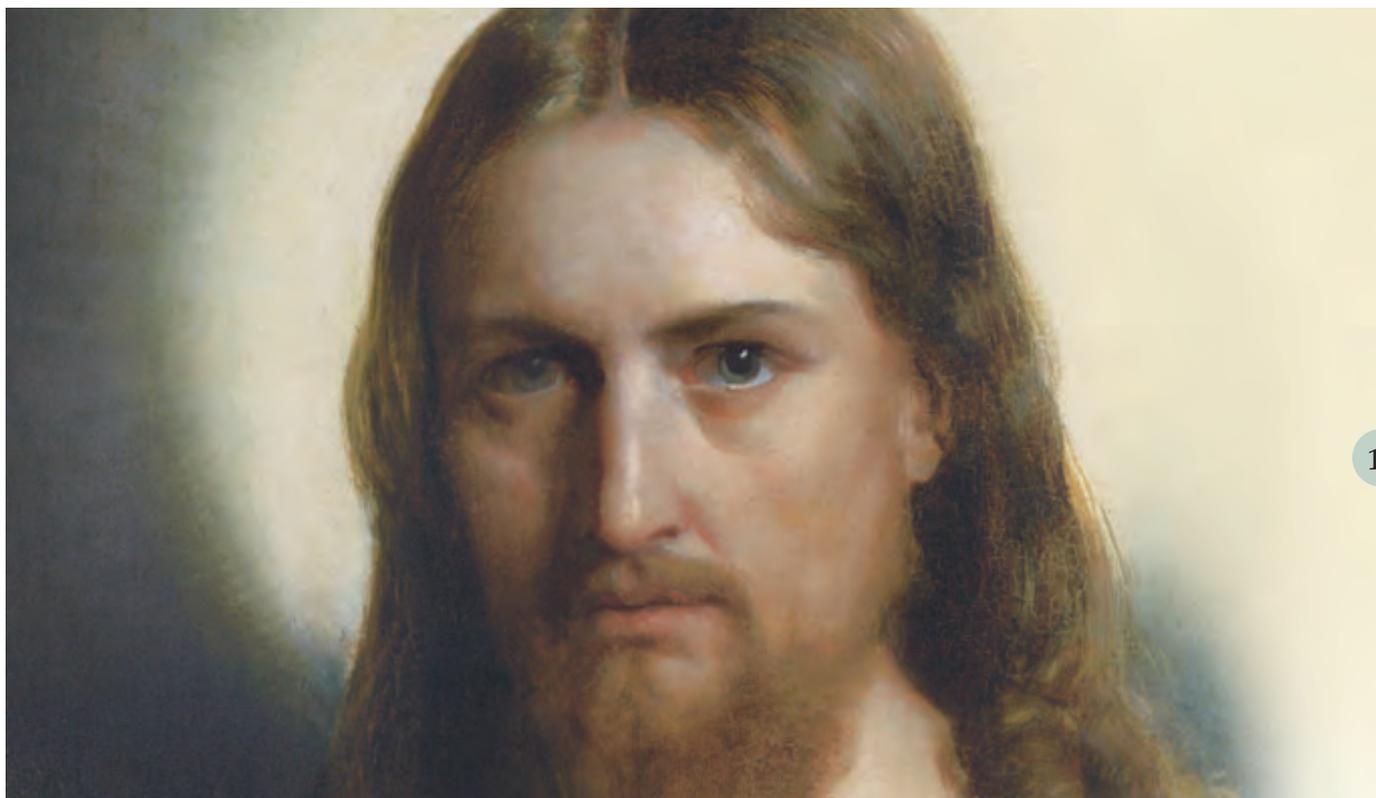
永遠の結婚——  
新しくかつ永遠の聖約における聖約,  
24ページ

将来に対する不安を静める,  
34ページ



「また天国は、  
良い真珠を  
捜している商人の  
ようなものである。

高価な真珠  
一個を見いだすと、  
行って持ち物を  
みな売りはらい、  
そしてこれを  
買うのである。」



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
救い主のために時間を取る  
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
イエス・キリストの神聖な特質  
—— 思いやりと親切

特集

- 10 救い主イエス・キリストの証人  
ボイド・K・パッカー会長  
45年にわたって務めた使徒が「いざ  
さかの疑念もなく」証あかしをしています。
- 14 ジョセフ・スミスと黙示録  
デビッド・A・エドワーズ  
なぜジョセフ・スミスは黙示録を  
「神が書くよう命じられた書物の中  
で最も簡明なものの一つ」と呼んだ  
のでしょうか。
- 20 正しい方法で正しい質問をする  
スコット・H・ネヒト  
正しい質問をすることは、福音を  
学び教えるうえで大きな違いを生み  
出します。
- 24 新しくかつ永遠の聖約  
マーカス・B・ナッシュ長老  
新しくかつ永遠の聖約の条件に  
従って生きる人は全て、この世に  
おいては喜びと平和という報いを、  
そして来るべき世においては永遠  
の命という報いを受けます。

- 32 「わたしは神に約束しました」  
ネストル・クルベロ  
エクアドルの一人の会員の献身が、  
その地における教会歴史にとって  
決定的な転機となったことが分か  
ります。
- 34 安かれ  
D・トッド・クリストファーソン長老  
このクリスマスの季節、救い主の平安  
を感じるために時間を取りましょう。

シリーズ

- 8 キリストについて語る——  
命と愛の贈り物  
ブラッド・オールレッド
- 38 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——  
本当のクリスマス  
ハワード・W・ハンター大管長

表紙

表紙——  
フォトイラストレーション/マシュー・ライアー  
表紙裏——  
写真/パトリシオ・マルトラナ/iStock/Thinkstock  
裏表紙裏——  
写真/クレベール・テックス



48

#### 44 伝道からの早期帰還

ブリタニー・ロマネロ・カスコ

わたしはキリストの病人への癒やしを信じていたので、主がわたしにも同じようにしてくださると信じていました。

#### 48 ヤングアダルトのプロフィール ——ドイツで証人として生きる

ユスティナ・マキャンドルス

天の御父がどのように彼女を御覧になっているかを理解することは、エステルが周りの人との関係を築くことにおいて助けとなってきました。



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく  
隠れている  
リアホナを  
さが  
捜しましょう。  
ヒント——

あなたは  
りょうしん  
両親から  
なに  
何を学びましたか。



64

#### 50 クリスマスの本当の意味を知るために

ディーター・F・ウークトドルフ管長

わたしたちはどのようにしてキリストへの感謝を感じ、主に従う決心を新たにすることができるでしょうか。

#### 51 リサイクルショップで見つけた、人生を変える贈り物

キアヌ・ウィリアムズ

クリスマスに、祈りへの答えが永遠の家族へと導いてくれました。

#### 52 新入り

マシュー・フリットン

マシューは定員会でほとんど独りでした。でもすぐに、祭司たちの多くはただ、来るようにという誘いを必要としているだけだということが分かりました。

#### 54 ジョセフを知っていた人たち

ジョセフを直接知っていた人たちの言葉を通して、預言者ジョセフ・スミスのことを理解しましょう。

#### 56 あなたは受ける人？ それとも与える人？

戒めを守ることや教会での奉仕について、考え方を見直してみましょう。

#### 57 ポスター——使うか、失うか

#### 58 質疑応答

わたしに、マイアメイドのクラス会長としてふさわしい力があるとは思えません。もっと良い指導者になるにはどうしたらよいでしょうか。

#### 60 若い改宗者として学んだこと

ヨーク・クレビンガット長老

いつも祈り、贖いを毎日応用することは、常に自信と清さを感じられるよう助けてくれます。

#### 64 「成長するわたし」で

家系図を調べる

ライザ・マルコンデス

家族歴史に取り組むことで、ライザは自分が家族の中でたった一人の教会員ではないということが分かりました。



68

#### 65 スペンサーのための聖文

マーカス・B・ナッシュ長老

スペンサーは、両親が町をはなれている間よくねむれなかったのはなぜなのか、分かりませんでした。何がいけなかったのでしょうか。

#### 66 父から学んだ教え

デビッド・A・ベドナー長老

ベドナー長老のお父さんは教会員ではありませんでした。でも、お父さんは神権について大切なことを教えてくれました。

#### 67 せいぶんに とうじょうする じんぶつ —— モルモン書

#### 68 コルドバ家族とすごした クリスマスイブ

ハニー・タリア・カベル・ロスノ

マリシエロと彼女の妹はクリスマスに、コルドバ家族へプレゼントよりも良いものをあげることができました。

#### 70 回復のパズル

ハイジ・ポールマン

アナは初等協会でお話をしなければなりません。でも、どうしたら回復の意味を説明できるでしょうか。

#### 72 聖文の時間——

イエス・キリストのさいりん

エリン・サンダーソン

#### 74 小さな みんなのために ——

イエスの たんじょうの  
ものがたり

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小若 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30  
電話: 03-3440-2351

価 格 年間購読: 国内 1,030 円(送料込み)

海外 1,030 円(送料実費)

海外在住の方は近隣のディストリビューションセンターへのお申し込みをお勧めします。

普通号/大会号 100 円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ [iahona.lds.org](http://iahona.lds.org) からお送りください。電子メールの場合は [iahona@ldschurch.org](mailto:iahona@ldschurch.org) へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語、アルメニア語、ヒスラマ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、中国語(簡体字)、クオアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトニア語、マダガスカル語、マラヤ語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2015 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用される場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——[cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

**For Readers in the United States and Canada:**  
December 2015 Vol. 39 No. 12. UAHONA (USPS 311-480)  
English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at **store.lds.org**. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5).  
NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

# 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「安かれ」34 ページ——クリストファーソン長老は、このクリスマスの時期に時間を取って静かに座り、幼子イエスに思いをはせるよう勧めています。家族でこの記事を読んでから、救い主の誕生にまつわる聖文を読んだり、賛美歌を歌ったり、聖書のビデオ(Biblevideos.org からアクセスできます)を見て敬虔な雰囲気をつくるとよいでしょう。それから、救い主の誕生と、それが自分にとってどのような意味を持つかについて、各人で考える時間を取ります。考えを書き留めたい人がいるかもしれませんが、日記を持って来てもらったり、紙を用意したりするとよいでしょう。考えたことを発表したい人がいれば、そうしてもらいます。

「クリスマスのビデオ」Mormon.org——今年のクリスマスのビデオを使って福音を人に伝える方法を考えてください。クリスマスのお菓子を友に配り、ビデオにアクセスできる URL が書かれたカードと一緒に渡すとよいかもしれません。あるいは、家族でソーシャルメディア・キャンペーンを計画して、何人とビデオを共有できるか、目標を立ててもよいでしょう。または、一緒にビデオを見るよう友人を誘ってもよいでしょう。

## あなたの言語で

[languages.lds.org](http://languages.lds.org) で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。家庭の夕べのアイデアや、日曜日のレッスンのためのヒントや、友達、家族と分かち合える内容を見つけるために、[Facebook.com/liahona.magazine](http://Facebook.com/liahona.magazine) (現在は英語・スペイン語・ポルトガル語のみ) をご覧ください。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- 愛, 8
- イエス・キリスト, 4, 10, 34, 40, 41, 42, 43, 50, 51, 59, 60, 72
- 祈り, 41, 42, 60
- 永遠の命, 24
- 教え, 20
- 思いやり, 7
- 回復, 70
- 家族歴史, 64
- 犠牲, 8, 32, 39, 40, 43, 56, 60
- クリスマス, 4, 8, 34, 38, 39, 68, 72, 74, 80
- 結婚, 24
- 献身, 32
- 再臨, 72
- 指導者, 58
- 従順, 24, 56
- 贖罪, 10, 44, 60
- 神権, 66
- 親切, 7, 41, 58
- 神殿の業, 42, 43, 58
- 新約聖書, 14
- スミス, ジョセフ, 14, 54, 70
- 聖文研究, 65
- 聖約, 24
- 賜物, 57
- 伝道活動, 32, 44, 48, 51, 52
- 平安, 34
- 奉仕, 4, 39, 41, 56, 58, 68
- 学び, 20
- モルモン書, 67



トーマス・S・  
モンソン大管長

# 救い主

## のために時間を取る

**再**びクリスマスの時季が訪れ、それとともに新たな年が始まります。救い主の降誕を祝い、新年の目標を立てたのが、つい昨日のこのようです。

今年目標の中で、救い主のために自分の生活の時間を取り、救い主に心を向けるという決意をしたでしょうか。そう決意したことをこれまでどれほどよく行ってきたとしても、わたしたちは皆もっとよくそれを果たしたいと願っていると、わたしは確信しています。このクリスマスの時季は、わたしたちの努力を振り返り、新たな努力をする最適の時です。

多忙な中で、他にも気を配らなければならないことが数多くあっても、生活と家庭にキリストを招くよう、意識して熱心に努力することが不可欠です。東から来た博士たちのように、救い主の星を目指し続け、「そのかたを拝〔む〕」気持ちを抱くことがきわめて重要です。<sup>1</sup>

いつの時代でも、イエスのメッセージは変わることがありません。イエスは、ガリラヤの海辺でペテロとアンデレに、「わたしについてきなさい」と言われました。<sup>2</sup> ピリポに声を掛けて、「わたしに従ってきなさい」と言われました。<sup>3</sup> 収税所に座っていたレビ人に、「わたしに従ってきなさい」と命じられました。<sup>4</sup> そして、耳を傾けさえするなら、皆さんとわたしに同じ招きの言葉が掛けられることでしょう。「わたしに従いなさい」と。<sup>5</sup>

今日わたしたちがイエスの足跡に従い、イエスの模範に倣うとき、他の人の人生に祝福をもたらす機会があることでしょう。イエスは、自分自身をささげるようにわたしたちを招いておられます。「見よ、主は心と進んで行く精神とを求めらる。」<sup>6</sup>

このクリスマスにあなたの奉仕を必要としている人が誰かいないでしょうか。あなたの訪問を待ち望んでいる人がいないでしょうか。

何年前か、わたしはクリスマスの時季に、夫を亡くした高齢の女性の家を訪ねました。その家にいたとき、玄関のベルが鳴り、いつも非常に忙しく働いている有名な医師が玄関先に立っていました。彼は求められて来たものではありません。寂しく暮らしている患者を訪問するように促しを感じて訪れたのです。

この時季に、家に籠もっている人々は、クリスマスの訪問者を心待ちにしています。ある年のクリスマスに、わたしはケアセンターを訪れ、5人の高齢の婦人と座って話をしました。最年長の婦人は101歳でした。彼女は目が不自由でしたが、わたしの声は分かりました。

「ビショップ、今年は来るのが少し遅かったわね」と、彼女は言いました。「もう来ないのかと思ったわ。」

わたしたちは一緒にすばらしい時を過ごしました。ところが一人の入居者がしきりに窓の外に目をやり、「今日、息子が会いに来るはずなのよ」と何度も繰り返していました。本当に来るだろうか、わたしは思いました。というのは、これまでのクリスマスの時季に彼が訪問してきたことは一度もなかったからです。

今年中に、助けの手を差し伸べ、愛に満ちた心を示し、進んで行く精神をもって行動する時間はまだあります。言い換えれば、救い主が示された模範に従い、救い主から期待されているように奉仕する時間がまだあるということです。昔の宿屋の主人とは違い、<sup>7</sup> 救い主に仕えるなら、自分の



生活の中で救い主のために時間を取って救い主に心を向ける機会を失うことはないでしょう。

野宿している羊飼いたちに告げられた天使のメッセージにあるすばらしい約束を理解できるでしょうか。「大きな喜びを、あなたがたに伝える。……きょう……あなたがたのために救主すくいぬしがお生まれうまになった。このかたこそ主なるキリストである。」<sup>8</sup>

クリスマスに贈り物を交換するときに、全ての贈り物の中で最も大いなる贈り物、すなわち救い主、贖い主あがなという贈り物を思い出し、感謝し、受け取ることができますように。それによって、永遠の命を得られますように。

「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。見よ、彼は与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ばない。」<sup>9</sup>

救い主に従い、救い主に仕え、救い主を敬い、生活の中でわたしたちに対する救い主の贈り物を受け取り、父リーハイの言葉にあるように、「主の愛の御腕みうでに永遠に抱かれ〔る〕」ことができますように。<sup>10</sup> ■

注

1. マタイ 2:2
2. マタイ 4:19
3. ヨハネ 1:43
4. マタイ 9:9
5. 教義と聖約 38:22
6. 教義と聖約 64:34
7. ルカ 2:7 参照
8. ルカ 2:10-11
9. 教義と聖約 88:33
- 10 2 ニーファイ 1:15

このメッセージから教える

**モ**ンソン大管長は、「生活と家庭にキリストを招くよう、意識して熱心に努力する」ようにとわたしたちに呼びかけています。個人で、また家族で、どのように意識してこの努力をすることができるかについて、あなたが教える人たちとともに話し合うとよいでしょう。このクリスマスの時季に訪問するか奉仕することのできる特定の人や家族について考えてもらうとよいでしょう。「今年中に、助けの手を差し伸べ、愛に満ちた心を示し、進んで行う精神をもって行動する時間はまだあります。」

## クリスマスの時季に奉仕する方法

**モ**ンソン大管長は、高齢の人たちとケアセンターにいる人たちを、特にクリスマスの時季に時間を取って訪問します。訪ねて来る人がいて喜ぶ人がいる一方で、来ることのない訪問者を待ち望む人もいます。モンソン大管長は述べています。誰かを待っている人がいます。今年のクリスマスには、**あなた**がその誰かになることができるかもしれません。

今年のクリスマスに孤独を感じる人が一人もいないようにするのに役立つ方法を、以下に少しだけ紹介しましょう。この時季にあなたの地域で手を差し伸べられる方法を、もっとたくさん考えてみてください。「あなたの訪問を待ち望んでいる人がいないでしょうか。」



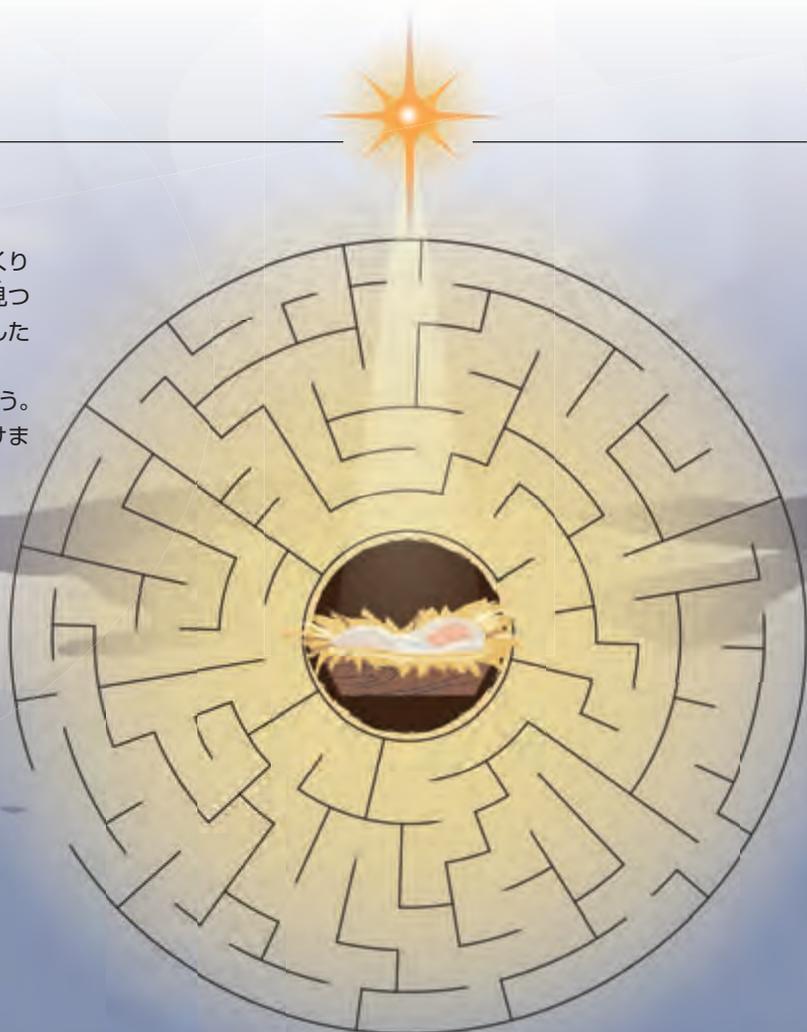
- クリスマスカードを作って、宣教師や、ワードまたは支部の独身の会員と高齢の会員に送る。
  - 地元の地域組織でボランティア活動を行う。
  - 友人と隣人にクリスマスの贈り物としてモルモン書を渡す。
  - ワードや家族の高齢者を訪問する。
  - 食事やお菓子などを作って隣人に届ける。
- 地域社会で奉仕できる方法に関する他のアイデアについては、[lds.org/topics/humanitarian-service/help?lang=jpn](https://lds.org/topics/humanitarian-service/help?lang=jpn) を見てください。

## こども

### ひかり 光に したがう

**イ**エスが お生まれになった<sup>あと</sup>後、 はかせたちが おくりもの<sup>を</sup>もって来ました。かれらは、イエスを 見つけるために、空に かがやく 新しい 明るい 星に したがって来ました。

イエスのもとに 行くために、道に したがいましょう。あなたは イエスに どんな おくりもの<sup>を</sup>もって行けませんか。



よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるようお願いしてください。  
救い主の神聖な特質を理解することで、救い主を信じるあなたの信仰はどれほど増し、  
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹にどれほど祝福が注がれるでしょうか。  
詳しくは [www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn](http://www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn) をご覧ください。

## イエス・キリストの 神聖な特質—— 思いやりと親切

本記事は、救い主の神聖な特質に焦点を当てた家庭訪問メッセージシリーズの一環です。

『聖典の中で、思いやりは文字どおり『ともに苦しむこと』を意味する。また、同情や気の毒に思ふ心、慈しみを互いに示し合うことも意味する。』<sup>1</sup>

トーマス・S・モンソン大管長はこう言っています。「深い思いやりを込めた関心について、イエスは多くの模範を示しておられます。ベテスダの池での体の不自由な人、姦淫を犯して連れて来られた女、ヤコブの井戸の女、ヤイロの娘、マリヤとマルタの兄弟ラザロ、それぞれがエリコへの道での負傷者を表しています。彼らは皆、助けを必要としていました。

ベテスダの池において、イエスは体の不自由な人に向かって言われました。『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい。』罪を犯した女には勧告が与えられました。『お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。』水をくみに来た女には、『永遠の命に至る』水が



湧き上がる泉を与えられました。ヤイロの死んだ娘には『タリタ、クミ。少女よ、さあ、起きなさい』と命じられました。墓に葬られたラザロには『出てきなさい』と呼ばかけられました。

救い主は常に無限の思いやりを示されました。……心の扉を開いて、まことの思いやりを生きた模範として示した主がお入りになれるようにしましょうではありませんか。』<sup>2</sup>

### その他の聖句

詩篇 145：8；ゼカリヤ 7：9；1ペテロ 3：8；モーサヤ 15：1，9；3ニエファイ 17：5－7

#### 注

1. Guide to the Scriptures, “compassion” の項。scriptures.lds.org [英語]
2. トーマス・S・モンソン「思いやりという贈り物」『リアホナ』2007年3月号、4－5，8
3. リンダ・S・リーブズ「主はお忘れになっていません」『リアホナ』2012年11月号、120
4. リンダ・S・リーブズ「主はお忘れになっていません」『リアホナ』、118
5. リンダ・S・リーブズ「主はお忘れになっていません」『リアホナ』、120



信仰・家族・扶助

### 聖文から

中央扶助協会会長会第二顧問のリンダ・S・リーブズ姉妹はこう語っています。「夫とわたしは17歳の娘のそばにひざまずき、娘の命を救ってくださるよう嘆願しました。……答えはノーでしたが、……〔救い主〕が……わたしたちが悲しみ苦しむときに共感してくださることを知ることになりました。』<sup>3</sup>

「救い主の生涯の中でラザロの話はわたしの大好きな話の一つです。聖文に『イエスは、マルタとその姉妹〔マリヤ〕と〔兄弟の〕ラザロとを愛しておられた』と記されています。』<sup>4</sup> ラザロが病氣だという知らせがイエスのところへ送られましたが、イエスが到着したとき、ラザロはすでに死んでいました。マリヤはイエスに駆け寄り、足もとにひれ伏して泣きました。……イエスはマリヤが泣いているのを御覧になり、「激しく感動し、……涙を流され」ました（ヨハネ 11：33，35）。

「これがわたしたちに与えられた責任です。わたしたちはまず自分で触れて、自分で見なければなりません。それから天の御父の子供たちが皆、触れて、見て、救い主がわたしたちのあらゆる罪だけでなく、痛みと苦しみと悲嘆を御自分の身に負われたことが分かるように助けなければなりません。主がそのようになされたのは、わたしたちが何を感じており、どのようにわたしたちを慰めたらよいかをお知りになられるためだったのです。』<sup>5</sup>

### 考えてみましょう

あなたが示す思いやりによって祝福を受けられるのは誰でしょうか。

## 命と愛の贈り物

ブラッド・オールレッド

母の贈り物はクリスマスの本当の意味を教えてくださいました。

おじのエドはいつも人生を心から楽しみ、それは周りの人たちにも伝わりました。しかし、おじの腎臓は両方とも機能が低下していて、腎不全の進行を遅らせるために何年も人工透析を受けていました。その治療は苦しく、しかも頻繁に受けなければなりません。治療のたびにおじの体力は激しく消耗しました。そして、ようやく回復する頃に次の治療が待っているという状態で、1995年の秋にはかつての元気な姿はありませんでした。

そしてついに、すぐにも腎臓移植をしなければ、長くは持たないと医者から宣告されました。腎臓は一つ

あれば生命を維持できます。しかしエドは、どんな手術にも必ず危険が伴うという理由で、誰にも腎臓の提供を求めませんでした。しかし、選択の余地はありません。腎臓を移植できるかどうか調べるために、親しい友人や家族が何人か検査を受けました。一人だけ申し分のない提供者が見つかりました。エドの姉ドットィー、わたしの母です。

12月7日、エドの友人、家族の多くがエドとドットィーのためにも断食し、祈りました。手術を担当する医師は双子の兄と弟でした。そしてなんとこの二人は、互いに腎臓のドナー（提供者）とレシピエント（移

植者）だったのです。二人がどんな手術にも全力を尽くし、手術の後には頭を垂れて祈り、結果を主の手に委ねる医師だと知ったエドと母は感銘を受けました。

手術当日、一人の医師が母の腎臓の一つを摘出して縫合している間、彼の兄が提供された腎臓を慎重にエドの腹部に移植しました。

手術は成功しました。しかし、エドの体が新しい腎臓を受け入れるかどうか経過を見なければなりません。免疫システムにある抗体を抑えて回復の可能性を高めるため、エドを集中治療室に隔離してウィルス感染を防ぐ措置が取られました。集中治療室を出ても、妻子以外の面会は許されませんでした。しかしクリスマスイブの日、祖父母が毎年開いているクリスマスイブを祝う集まりに行く特別の許可が出ました。

マスクを掛けたエドは、部屋に入るとまっすぐにドットィーのもとに行き、彼女を強く抱き締めました。抱き合っている二人を見て、家にいた誰もが泣きました。二人からあふれる愛を感じたのです。姉は弟に命の賜物たまものを与えるために苦しみを受けました。それは、愛の賜物、犠牲の賜物であり、弟が自分の力ではどうしても得ることができなかった贈り物でした。



「神はそのひとり子を賜たまわったほどに、この世を愛して下さった。それは御子みこを信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」

神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」

ヨハネ 3：16 - 17



わたしも涙をぼろぼろこぼしながら二人を見ていて気がつきました。わたしたちもこのように救い主と直接お会いするのだらうということです。主は、わたしたちが自分ではできないことを代わってしてくださいました。正義の律法を満たすために、自らを犠牲にして激しい苦しみに耐えることがおできになったのは、神である主だけでした。主を救い主として受け入れる全ての人に憐れみの律法が及ぶように、全人類の罪を贖う資格のある御方は完全であられる主だけでした。

こう考えながら、救い主と救い主の犠牲への感謝の気持ちを表すために、できることは何でもしようと改めて決心しました。いつか主のもとに行くふさわしさを得、主を抱き締め、そのような犠牲を払うほどにわたしを愛してくださったことへの感謝を直接主にお伝えできるよう、わたしは一人の弟子として生活するよう努力しようと思います。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

### 賜物を分かち合う

あなたにとって、愛に満ちた主の犠牲はどのような意味がありますか。

救い主の愛の賜物の恩恵を受けることができるのは誰ですか。

誰に福音を伝え、希望のメッセージを知らせ、クリスマスの喜びを分かち合うことができるでしょうか。





十二使徒定員会会長  
ボイド・K・  
パッカー会長  
(1924-2015年)

# 救い主 イエス・キリスト の証人

中央幹部として54年、とりわけ使徒として45年にわたって、  
「全世界におけるキリストの名の」特別な証人であるパッカー会長は、  
謙遜に証を述べました。(教義と聖約107:23)  
2015年7月3日に亡くなる少し前、パッカー会長は生涯にわたる務めから抜粋した  
次の証をリアホナに掲載するよう依頼しました。  
クリスマスの季節、これらはパッカー会長が救い主イエス・キリストについて抱いていた  
証と愛を如実に物語っています。

## わたしは主を愛しています

「わたしはクリスマスが大好きです。クリスマスの時期になると、何か特別な雰囲気に満たされます。それは教会員だけではなく、世界中の人々に及びます。イエスがキリストであられるという証に満たされるのです。……主の僕の一人として、十二使徒の一人として、わたしはイエスがキリストであられることを知っています。……

わたしは主を愛しています。主の御業を愛しています。わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会を愛しており、イエスがわたしたちの主であり友であられることを証します。」<sup>1</sup>

## わたしは主の証人です

「話し合うには神聖過ぎるという事柄が幾つかあります。……

それは秘密ではないのですが、神聖なものです。すなわち話し合うようなものではなく、心に留め、また最大の畏敬の念をもって守り、

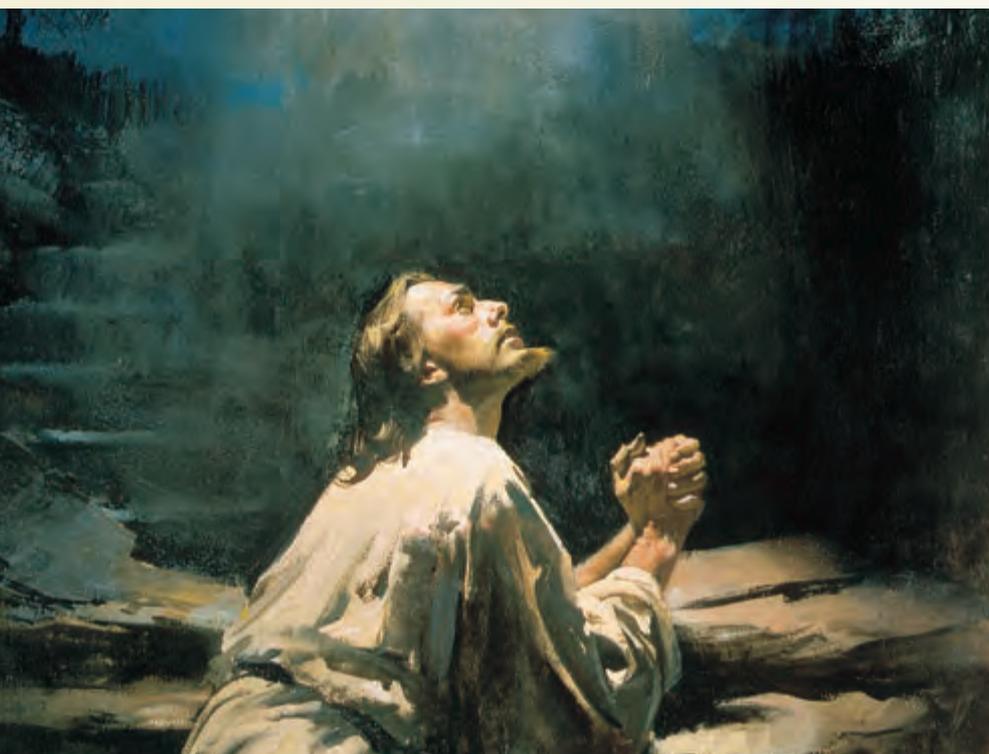
考えなければならないものなのです。

わたしは預言者アルマが次のように述べた言葉の意味が分かるようになってきました。

『神の奥義を知ることは多くの人に許されている。しかしこれらの人々は、神が人の子らに授けておられるだけの御言葉しか伝えてはならないという、厳しい命令を受けている。神の御言葉は、人の子らが神に寄せる注意力と熱意の度合いに応じて与えられる。』

したがって、心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか受けませんが、心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される。(アルマ12:9-10)……

さてわたしも皆さんと同じように、なぜわたしのような者が、聖なる使徒職に召されたのか不思議に思っています。わたしには多くの点でこの召しを行うに必要な資格に欠けていると



悪事に対して罰をお受けになりました。蛮行、不道徳、邪悪、腐敗、悪癖に対して、また殺すことや、苦痛と恐怖を与えることに対して、すなわち、この地上でそれまでに行われた全ての悪と、その後に行われる全ての悪に対して、罰をお受けになったのです。そのような選<sup>あ</sup>びをするに当たって、主はあの悪<sup>あ</sup>しき者、すなわち肉にとどめておかれることも死すべき者としての苦痛を受けることもない者のすさまじい力と向き合われました。それがゲツセマネでした。

贖罪がどのようにして行われたのか、わたしたちには分かりません。あの清い御方の光の前に悪が離れ去り、恥じて隠れた瞬間を見ていた人は一人もいません。全ての悪をもってしても、あの光を消すことはできませんでした。贖罪の業が成し遂げられたとき、罪の代価は支払われて

ころがあります。その資格を満たすために、努力しなければならぬことがたくさんあります。このことについて考えていると、わたしはたった一つ、おそらくこの職に召された理由だと思われることに一つだけ行き着きます。それはわたしが先ほど述べた証を持っているということです。

わたしはイエスがキリストであられることを皆さんに宣言します。わたしは、主が生きておられることを知っています。イエスは時の中間にお生まれになり、福音を教え、試みに遭われ、十字架におかかりになりました。そして3日後によみがえられ、復活の初穂とられました。イエスは、骨肉の体を持っておられます。わたしはそれを証します。わたしは主の証人です。』<sup>2</sup>

### 主は罰をお受けになった

「主が十字架上で亡くなられる前にも後にも、多くの人が英雄的な無私の行いのうちに進んで自分の命をささげてきました。しかしそれらの人々の苦痛はどれも、キリストが堪え忍ばれた苦痛に匹敵するものではありませんでした。主のうえには、全ての人類の背<sup>しよくざい</sup>き、全ての人類の罪の重荷がのしかかっていました。そして贖罪は、成し遂げられるか否かまだ確定していない状況にありました。主が進んで行われる業によってのみ、憐れみと正義を和解させ、永遠の律法を維持することができ、死すべき人間が贖<sup>あがな</sup>われるために不可欠な執り成しを遂げることができるのでした。

主は自らの選<sup>あ</sup>びにより、全人類の身代わりとしてあらゆる

いました。悔い改める全ての人に対して、死も地獄も拘束力を持たなくなりました。人はついに自由となりました。その結果、かつて生を受けた全ての人、あの光に従い贖いを受けることを選べるようになったのです。

この無限の犠牲により、すなわちこの『キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る』のです(信仰箇条1:3)。』<sup>3</sup>

### 傑出した教師

「主の福音を教えようと努力をする過程で、わたしは主であり、イエス・キリストであり、神の御子、御父の独り子であられる御方を知るようになってきました。わたしはその主の御前<sup>みまえ</sup>にあつて敬虔<sup>けいけん</sup>な思いで、その教えられた内容について、またその教え方について、深い敬意を抱いています。わたしたちが皆、主が教えられたように教えたいと願ったとしても、無理からぬことです。また、主のような者になりたいと願ったとしても、責められることはなかりとう思います。主は単なる教師であっただけではありません。傑出した教師であられたのです。』<sup>4</sup>

### 最も知る価値のある真理

「死すべき者であるわたしたちは、救い主がどのようにして贖いの犠牲を果たされたのか十分には理解できないかもしれませんが、実際に理解できません。しかし現時点では、救い主がどのように苦しまれたかということよりも、なぜ

苦しまれたかということの方が大切です。救い主が皆さんのために、わたしのために、また全人類のために苦しまれたのは、なぜでしょうか。父なる神と全人類を愛しておられたために苦しまれたのです。『人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。』(ヨハネ15:13)

ゲツセマネで、キリストは使徒たちから離れた所に行きつれられました。そこで何が起こったのか、わたしたちには理解することはできませんが、主が贖罪を完了されたことは確かです。キリストは、全世界の人々の過ち、罪と罪悪感、疑いと恐れを進んで引き受けられたのです。わたしたちが苦しまずに済むように、わたしたちに代わって苦しまれたのです。これまで多くの人がひどい苦しみを受け、つらい悲惨な死を迎えました。しかし、キリストの苦しみはその全てを超えていました。……

救い主の苦しみは、後にも先にも他の全ての苦しみとは違っていました。全人類に課せられた罰を全て引き受けられたからです。それを想像してみてください！ 救い主には、

まったく罪がなく、  
全人類の罪と背きを背負って  
その代価を払うことがおできになる方は、  
人類の歴史の中で  
たった一人しかおられませんでした。

支払うべき負債はまったくありませんでした。何一つ間違いを犯されませんでした。にもかかわらず、人に知られている罪悪感、嘆きと悲しみ、苦痛、また屈辱の全て、さらに知的、情緒的、肉体的苦痛の全てを合わせて、救い主はその全てを経験されたのです。まったく罪がなく、全人類の罪と背きを背負ってその代価を払うことがおできになる方は、人類の歴史の中でたった一人しかおられませんでした。

救い主は御自分の命を差し出して、実にこう言われたのです。『世の罪を負うのはわたしである。』(モーサヤ26:23) 救い主は十字架につけられ、亡くなられました。しかし、人々は救い主の命を奪うことはできませんでした。救い主が御自分の意志で亡くなられたのです。……

つまりいたことがあったとしても、しばらくの間道が分からなくなることもあったとしても、皆さんはもはやこの世であちらこちらにさまよい歩くことをせずに、信仰をもって前進することができます。皆さんを改めて平安と安全へと導き

こうと備えをしている人たちがいます。聖文の中で約束されているように、『わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に』、実に神の恵みが与えられるのです(2ニーフアイ25:23)。それができるということは、わたしにとって、最も知る価値のある真理です。

わたしは救いの輝かしい朝が訪れることを約束します。その時が来れば、『人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安』(ピリピ4:7)が再び朝日のように人生に注がれ、皆さんも主も、『もはや〔皆さんの〕罪を思わない』ようになることでしょうか(エレミヤ31:34)。どうすればそれが分かるのでしょうか。皆さんには分かります！(モーサヤ4:1-3参照)<sup>5</sup>

### わたしの証

「これまで長年生き、教え、奉仕し、何百万キロも世界中を旅したことで得てきた全てのことに加えて、わたしが伝えたい一つの偉大な真理があります。それは救い主イエス・キリストについてのわたしの証です。

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、ある神聖な経験をした後、次のように記録しました。

『そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、「小羊は生きておられる。」

わたしたちは……小羊を見たからである。』(教義と聖約76:22-23)

彼らの言葉はわたしの言葉でもあります。<sup>6</sup>

「わたしは生涯を通じ、イエスがキリストであり、神の御子であられるという特別な証を述べることでの特権に浴してきました。わたしは、心の底からへりくだり、しかし、いささかの疑念もなく、イエスが御父の独り子であられることを証します。この教会はそのイエスの教会です。イエスが教会を管理し、この御業を導いておられるのです。イエスはわたしたちの贖い主です。わたしはイエスが生きておられることを知っています。そして、わたしはイエスを知っています。このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。」<sup>7</sup> ■

### 注

1. "Our Witness of the Lord," 中央幹部訓練集会, 1974年12月5日
2. 「御霊は証す」『聖徒の道』1972年1月号, 10-11参照
3. 「イエス・キリストとはどのような御方でしょうか」『リアホナ』2008年3月号, 15
4. *Mine Errand from the Lord: Selections from the Sermons and Writings of Boyd K. Packer* (2008年), 337
5. 「救い主の私心のない神聖な犠牲」『リアホナ』2015年4月号, 37-38
6. 「証人」『リアホナ』2014年5月号, 97
7. パッカー会長は亡くなる前にこの最後の証を書きました。

# ジョセフ・スミス

と 黙 示 録

預言者ジョセフ・スミスは、  
黙示録に含まれている  
神秘的な記述の幾つかを  
解明する手助けをし、  
黙示録が  
わたしたちの時代に  
関連したものであることを  
明らかにしました。



教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

**黙**示録は紀元1世紀に書かれましたが、正典として受け入れられたのは、新約聖書の全ての書の中で最後でした。その後の数世紀に、一部のキリスト教学者は、黙示録の著者について疑問を呈し、その教義の一部（福千年に関する教え、人は行いに応じて裁かれるという教えなど）に異議を唱えました。また旧約聖書の引用と示現の描写はあまりにも奇妙で、新約聖書の他の書とはまったく違っていと述べました。

しかし、反論できない確かな事実から、結局この書は広く受け入れられるようになりました。例えば、最も初期のキリスト教作家の多くが黙示録に言及しており、黙示録を使徒ヨハネによって書かれたものであるとし、自らの著作物に広範囲かつ肯定的に引用しました。異論なく正典とされた他の幾つかの書は、このような証拠を挙げることはできません。

神が回復の預言者としてジョセフ・スミスを召された19世紀初頭までに、黙示録は聖書のほとんどの版に加えられ、広く読まれました。ヨハネの示現の修辞表現は想像力をかき立て、多くの解釈が生まれました。今日もそれは続いています。

フナインツノクリスティアナ・スミス。アトキスエンハネマーク・スタイナー画 ©PROVIDENCE COLLECTION





黙示者ヨハネが  
終わりの時に関する示現を  
書き記すよう任じられ  
予任されたことを、  
ニーファイは知った  
(1ニーファイ  
14:19 - 29 参照)。  
わたしたちは  
ジョセフ・スミスのおかげで  
このことを知っている。  
その示現の記録は  
現在黙示録の中にある。

ジョセフ・スミスは時満ちる神権時代の預言者として、特有の立場にあり、黙示録に光を当て、読んで理解する意欲を失うものとならないようにしました。預言者は少なくとも二つの方法でこれを行いました。(1) 黙示録の特定の部分について説明し、文脈全体に展開する。(2) 黙示録の神秘性をなくす。

### 説明し、展開する

ジョセフ・スミスが黙示録を説明した最も良い例が、教義と聖約第77章にあります。1832年3月に受けたこの啓示は、黙示録第4 - 11章の特定の節に関する問いと答えから成っています。預言者が述べたように、この説明は聖書の靈感訳に携わっているときに受けたものです(教義と聖約77章の前書き参照)。

その問いはかなり率直で、基本的には「これはどういう意味か」「このことはいつ起こるか」という問いかけです。そしてその答えは同様に、必ずしも包括的ではありませんが率直です。預言者ジョセフ・スミスが求めて受けた答えは、さまざまな臆測による解釈を退けており、ヨハネの示現が末日の業にどのように関連しているかをわたしたちの多くが理解する助けとなります。

例えば、黙示録第5章から始まるヨハネが述べた巻物の7つの封印は、地球の歴史における7つの主要な期間を表していること、また最後の二つの封印はわたしたちの時代以降を指していることを理解するのに、この啓示が役立ちます(教義と聖約77:6 - 7参照)。これは、ヨハネの示現で第6と第7の封印に非常に多くの時間が費やされている理由を理解する助けとなります。その後、ジョセフ・スミスが受けた啓示は引き続き、第6の封印に関して述べられているものの一部(4人の天使と、イスラエルの部族から印を押された14万4,000人)が末日における回復と集合の

業にどのように関わるかを説明しています(教義と聖約77:9 - 11参照)。

もちろん、黙示録を説明するこの啓示は、預言者ジョセフ・スミスが聖書の翻訳から黙示録に対する理解を引き出した唯一の貢献ではありません。ジョセフ・スミスは翻訳する際に時折、本文をもっと明瞭にするように靈感を受けました。<sup>1</sup> しかし、他の聖文と関連づけて相互に強めるために、言葉を追加あるいは改訂するように靈感されたこともしばしばありました。<sup>2</sup> 当時、聖書の翻訳に関するジョセフ・スミスの働きの一部が、聖典のさまざまな書の共通した内容をつなぎ合わせて、教えと預言をつづれ織りのように組み合わせることであったのは明らかです。黙示録もその例外ではありません。

さらに、ジョセフ・スミスは、他の数々の啓示と翻訳を通して、黙示録が時代を超えてさまざまな預言者に与えられたパノラマのような示現のパターンに倣っていることを示し、黙示録の文脈を説明しました。モルモン書と高価な真珠の中で、わたしたちは、ニーファイやヤレドの兄弟、モーセ、エノクが皆、同様の示現を見たことを学んでいます。世の終わりを含む人類の歴史の流れを示す示現です。この預言者たちは世の終わりを示されましたが、世の人々に伝えるのを禁じられたことも、わたしたちは学んでいます。ヨハネが書き記すように予任されたからです(1ニーファイ14:25 - 26参照)。したがって、預言者ジョセフ・スミスを通して世に出されたモルモン書は、イエス・キリストの再臨に先立つ出来事に関するヨハネの記述をわたしたちが手にすること、そしてわたしたちがそれを研究する価値があることを教えています。

このようなジョセフ・スミスを通して明らかにされたさらなる光があるため、わたしたちは、黙示録の包括的なテーマをもっとよく理解することができるのです。それは次の



# ジョセフ・スミスのおかげで 黙示録について分かる事柄



ジョセフ・スミスを通して明らかにされたさらなる光があるため、わたしたちは、キリストとキリストの聖徒が悪魔と世に対して勝利を収めるという啓示のテーマをもっとよく理解することができます。



第7の封印が解かれた後、キリストは戻ってこられ、悪人は滅ぼされる。

地球は清められ、福千年が始まる(教義と聖約 88-89 - 110 参照)。

黙示 7:1-8

教義と聖約 77:8-11

4人の天使とイスラエルの部族から印を押された14万4,000人の僕が、終わりの時における回復と集合の業に関わる。

黙示 20:2

1ニーファイ 22:26

サタンは「〔キリストの〕民の義のために」福千年の間縛られる。

復活

回復

背教

黙示 12:4, 7-9

教義と聖約 29:36-37; 76:25-29

ヨハネの示現では、地上で行われている神の軍勢とサタンの軍勢の間の戦いを強調するために、前世における天での戦いのことが簡潔に示されている。

黙示 5-8章

教義と聖約 77:6-7, 12

7つの封印は7つの期間を表す。最後の二つはわたしたちの時代以降を指している。

黙示 20:5

教義と聖約 76:81-85

星の栄えの王国を受け継ぐ者は、福千年の後まで復活しない。

「地球は火によるかのごとくに過ぎ去るであろう。」(教義と聖約 43:32-33 参照)

「また、聖なる都、新しいエルサレムが、……神のもとを出て、天から下って来るのを見た。」(黙示 21:2) これはエノクの町が戻ってくることを述べたものである。(モーセ 7:63 参照)

黙示 20:11-13

教義と聖約 128:6-7

人が行いに応じて裁かれる  
基となる(地上と天にある)  
数々の書物には、死者の救  
いに関する記録も含まれる。

黙示 17:5

1ニーファイ 13:6; 14:10

「大いなるバビロン、淫婦  
どもと地の憎むべきものら  
との母」とヨハネが述べて  
いるのは、悪魔の教会のこ  
とである。悪魔の教会には、  
イエス・キリストとその福音  
とイエス・キリストの教会に  
反対する全ての勢力が含ま  
れる。というのは、教会は  
ただ二つ、神の小羊の教会  
と悪魔の教会だけだからで  
ある。

スミスは説明しています。このように預言者  
は、ヨハネの示現には象徴的なものがある  
一方で、少なくとも記述の一部は文字どおり  
のものであることを明らかにしました。<sup>6</sup>  
また、このようなものに関する原則について  
も説明しました。

「いかなる種類のものであれ、神がある  
象徴的なもの、獣、形あるものを示現として  
授けられる場合、神は常にその示現の意味  
について啓示なり解釈なりを与える責任を  
負っておられる。そうでなければ、わたした  
ちはそれをどう考えるかに関して責任を  
問われることはない。したがって、神がそ  
の事柄について啓示なり解釈なりを授けて  
おられないならば、その示現や象徴の意味  
を知らないために罰の定めを受けるのでは  
ないだろうか、などと恐れる必要はまったく  
ないのである。」<sup>7</sup>

神秘的な示現の詳細の全てについて解釈  
を知ることは、わたしたちの聖文研究に  
おいて重要なことではありません。預言者  
たちの比喩的な言葉遣いに見られる不可解  
な事柄は、神の奥義と同じではありません。  
神の奥義は、「悔い改めて信仰を働かせ、  
善い行いをし、絶えず祈り続ける」人に与え  
られます(アルマ 26:22)。

預言者ジョセフ・スミスは、黙示録の神  
秘性をなくすことによって、イエス・キリスト  
の福音のさらに重要な部分から注意をそら  
しかねないものを取り去りました。言うま  
でもなく、ヨハネの示現は末日について重要  
な情報を与えています。背教と回復、イエ  
ス・キリストの再臨、悪魔に対する主の勝  
利、キリストの福千年の統治、それに復活と  
最後の裁きがそれです。これらの事柄は、  
真理を見いだし、主の御心みこころに従おうとする  
ときに助けとなります。しかし、その示現で  
述べられているものに関する特定の解釈に  
こだわると、わたしたちは最も重要なことを

見落とすかもしれません。<sup>8</sup>

黙示録を研究し、預言者ジョセフ・スミス  
を通して当てられたすばらしい光を活用す  
るとき、壮大な世界の歴史の中でわたした  
ちがどこにいるのか、また御自身の子供た  
ちに対する神の関わりの中でどのような立  
場にあるのかを理解することができます。  
このことが分かると、イエス・キリストにつ  
いて個人の証を持つことと、末日における  
主の業に献身的に参加することの大切さを  
理解することができます。そうすることで、  
世に打ち勝ち、キリストとともに御父から  
全てを受け継ぐことができるのです(黙示  
3:21; 21:7 参照)。■

注

1. 例えば、ジョセフ・スミスは黙示 2:1 や黙示 6:14 の一部を変更している。
2. 例えば、ジョセフ・スミス訳の黙示 1:7 の翻訳には次のように書かれている。「見よ、主は御父の栄光をまとい、数知れない王国の聖徒たちとともに雲の中を来られる。すべての人の目が主を見る。そして、主を刺し通した者たちと地のすべての部族は、主のゆえに嘆き悲しむ。」ジョセフ・スミスによって追加された言葉(イタリック体)は、この節を、キリストの再臨に関する他の聖文の教えと関連づけている。例えば、マタイ 16:27 (「父の栄光」) とユダ 1:14 (「無数の聖徒たち」) がそれである。
3. Bible Dictionary, "Revelation of John" の項
4. *History of the Church*, 第 5 巻, 342
5. もちろん、ジョセフ・スミスが知っていたように、7つの封印のうち最初の5つは過去の出来事を指すものである。しかし、この5つの封印は、人類の歴史の目的や終点に関するテーマを強調するのに役立ち、ヨハネの時代をはるかに超えた再臨に先立つ出来事で終わっている。
6. この際立った例において、生き物自体は文字どおりのものであって、4つの個々の生き物を表しているが、これらに関するヨハネの記述には、その外見よりもむしろ抽象的な特質を表す象徴的な要素(多くの目と翼)が含まれている(黙示 4:6-8; 教義と聖約 77:4 参照)。
7. *History of the Church*, 第 5 巻, 343
8. これは特に宣教師に当てはまると、ジョセフ・スミスが感じていたことは明らかで、こう述べている。「おお、イスラエルの長老たちよ、わたしの声を聞いてください。教えを説くために世界に遣わされるとき、語るべき事柄を教えてください。次のように説き、声高らかに叫んでください。「悔い改めなさい。天の王国は近づいているからである。悔い改めて福音を信じなさい。」第一の原則を宣言し、奥義には触れないでください。打ち負かされないためです。獣の示現や自分が理解していない事柄に決して手を出してはなりません。」(*History of the Church*, 第 5 巻, 344)

「大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母」とヨハネが述べているのは、悪魔の教会のことである。悪魔の教会には、イエス・キリストとその福音とイエス・キリストの教会に反対する全ての勢力が含まれる。というのは、教会はただ二つ、神の小羊の教会と悪魔の教会だけだからである。



# 正しい方法で 正しい質問をする

準備し、  
質問を考え、尋ね、  
それに答える  
方法を学ぶと、  
福音を学び教える  
技術に大きな違いが  
生まれます。

レッスンや家族の話し合いをすばらしいものにする要素はいろいろあります。活動、黙読による学習、グループでの作業などは、福音を教える教師がより効果的に教える際に使える方法の一例です。これは、正式に召された教師、セミナーやインスティテュートのボランティア教師、あるいは親にも当てはまります。

しかし、全ての教師が最も身につけるべき上位2つまたは3つのスキルに数えられるのが、質問を上手に用いる能力です。すなわち、質問を考え、尋ね、有意義な答えを引き出す能力です。大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように述べています。「質問をすることと質問に答えることは、学び、教える全てのことの中心です。」<sup>1</sup> 効果的に教えるには、このスキルを身につけることが肝要です。これを身につけるために次の5つのことを提案します。

## 最も効果的な反応を求める

生徒としてクラスに参加し、すばらしい質問を耳にすると、優れた教授技術の力を改めて痛感します。しかし、どのように効果的な質問を考え出し、尋ねればよいのか分からず

に戸惑い、気後れしてしまう教師も多いことでしょう。幸いなことに、これはどんな教師も習得できるスキルです。

質問を考え出すとき、その質問にどのような反応や答えが返ってくるか、予想してみてください。一部の質問は決まり切った答え、つまり、尋ねた質問にぴったり合う答えを求めます。そのような質問は、数学の授業（「この正方形の面積は何ですか」）あるいは科学の授業（「水の沸点は何度ですか」）で効果を発揮します。発見し、確認できる答えが一つしかないからです。福音の学習においても、話し合いの前に事実関係を確認する際に役立ちますが、話し合いのきっかけを作ることにおいては効果がありません。しかし、一般的には、この種の質問は準備しやすいため、最もよく使われます。

「前回は何を学びましたか」あるいは「……の名前を教えてください」というような質問をします。これらの質問は、教える生徒の反応を止めてしまいます。彼らは答えを知っていると思いながらも、自信がなく、あえて答えを言うことを恐れるのです。このような沈黙があると、教師はよく、質問が難しすぎたのだと解釈しますが、実際は質問が基本的すぎて、



生徒たちから即答を得る以上の有意義な成果が得られないだけです。

クラスの話し合いを促すうえでもっと有益な質問は、さまざまな思慮深い答えを引き出す質問です。このような質問をすると、相手がそのテーマについてどのように考えているか、あるいはどんな点を疑問に思っているか、見いだすことができます。例えば、モロナイ書第1章には、深い意味の込められた4つの聖句があります。4つの聖句を全て生徒と一緒に読み、その後こう尋ねたらどうなるのでしょうか。「これらの聖句のうち、皆さんの心の奥底まで響いたものはどれでしょうか。」生徒が話し始めるまで1分間時間を与えます。特定の答えを求めていないので、生徒の発言はほとんど全て、話し合いの材料になります。わたしは実際、その章を教えるときにその質問を使ったことがあります。そして、生徒からすばらしい答えが返ってきて、深い話し合いが行われました。

考えさせ、感じさせる質問がある一方で、思い出させたり、単に事実を述べさせたりする質問があります。時と場所によって思い出すことが役立つ場合もありますが、大切なのは何を思い出してもらおうかです。例えば、「前回、モロナイ書第1章について、一つ一つの聖句に力強い教えが込められていると話したことを覚えていますか。」

わたしがそう語るだけで生徒は考え出し、発言して続きを話したくなるでしょう。しかし、もしわたしが「前回は何について話しましたか」と聞いたなら、たいていの場合、生徒は沈黙したり、肩をすくめたりするでしょう。

### 二つ目の質問をする

福音を教える教師がよくする質問の一つは、「あなたの生活で信仰はどれくらい大切ですか」という類いのものです。一見意義深い質問のように思えますが、考えてみると答えは一つしかありません。「とても大切」ということです。当然ながら、信仰は（そして福音の他の原則はどれも）とても大切ですが、この種の質問はそれだけでは意味をなしません。「なぜそれほど大切ですか」または「あなたの生活で信仰が大切だったときの例を挙げていただけますか」など、付随する質問が必要だからです。これらの質問はクラスの話し合いを活発にするので、最初の質問は飛ばして二つ目の質問をすぐに行ってみましょう。二つ目の質問を先にする方が時間の節約になり、話し合いがうまく進みます。

### 前もって質問を書き出しておく

レッスンを準備しながら二つのことをすると助けになります。一つ目は、質問を書き出すことです。頭の中で考えるだけでなく、紙に書き出してください。言葉を注意深く選び、何回か読み直して、あなたが尋ねたいことがはっきりとしているか確認してください。

二つ目は、その質問をしたとき、生徒がどんな反応をするだろうかと自問してください。わたしはときどき、よい質問が書き出せたと思っても、声に出して読み、クラスの反応を想像したとき、うまくいかないと分かったことがあります。別のクラスだったらその質問は効果的だったかもしれませんが、自分の教えているクラスでは無理だと分かったので作り直しました。レッスンを計画する際、よく練られた、よく準備された質問が2つ、3つあれば、話し合いのきっかけが作れることを知っています。他の質問は自然に思いつきますが、スタート地点はよく練られた質問を用意しておかなければなりません。

このテクニックは、家庭においても同じように効果的です。我が家では質問や答えが飛び交って、福音について自然に話し始めることが多いように思います。しかし、特定の子供に対してもっと真剣に、もっと率直に何かを伝えなければならない場合もあります。そんなとき、わたしが具体的な質問を用意して、尋ね方を前もって練習し、子供がしそうな反応について考えておくと、非常にうまくいくことが分かりました。この場合、質問は紙に書き出しませんでした。心に刻んでおいたので、必要に応じて使うことができました。



## 沈黙を恐れない

とてもよい質問、つまり生徒に考えさせ、しばらく時間を置いて答えが返ってくるような質問が用意できた場合、生徒が答えるまでに数秒かかったとしても驚かないでください。沈黙があるかもしれませんが、不安にならないでください。特定の答えだけを求める質問、すなわち表面的な質問（例えば、「信仰箇条は幾つありますか」）には、すぐに答えが返ってきます。深い質問、すなわち相手の反応や答えを引き出す質問では、多くの場合学ぶ人は頭の中でしばらく考える時間が必要です。この場合、沈黙は歓迎すべきことなので、そのままにしてください。そうすれば、生徒が答え始めたとき、発言する内容により意味で驚かされることでしょう。

## 聖文に関する質問をする

効果的な質問を考え出し、尋ねる能力を本当に伸ばしたいなら、研究と準備の時間に、聖文に関する素晴らしい質問を自問できるようになる必要があります。

聖文研究に取り組む一つの方法は、個人的な靈感を求めて行うことです。わたしたちが章や節を読むのは、そこに書かれている美しい教えを楽しみ、教義と真理によって教化されるためです。別の取り組み方は、聖典を読むとき、質問をしながら聖文を綿密に調べる方法です。この方法はレッスンを準備する親や教師にとって効果的です。わたしがこの方法を用いるのは、さまざまな角度から考え、生徒が聖文を理解するのを助けるうえで最善の方法を見極めるためです。次はその一例です。教義と聖約第18章10節には有名な、霊を鼓舞する言葉が

書かれています。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」わたしはその聖句が大好きですが、ただ自分が鼓舞されるだけでは、クラスでは役立ちません。

わたしが研究し、準備しながら次のように自問したらどうでしょうか。「では、人はどのくらい価値があるのだろうか。大きな価値があるというのは分かる。でも、それを具体的に表せるだろうか」と。ある夜、夕食のときに娘の一人がまさにこの質問をし、それがきっかけで深い話し合いができました。わたしたちの結論はこうでした。人の価値とは、誰かがそれに支払おうとする価値に相当する。では、御父はわたしたちのためにどんな代価を支払われただろうか。御父は完全な御子の血によって代価を支払われた。このことから、一人一人には筆舌に尽くしがたい価値がある。聖句の言葉について娘が質問をしななければ、このような結論には至らなかったでしょう。

夕食時のあの話し合いは、他の教

える状況においても簡単に再現できます。生徒によりよい質問をしたいなら、あなた自身が読み、研究し、準備するときに、聖文に関する本物の質問をしましょう。飽くことのない好奇心を持ち、詳しく調べることを恐れないでください。どんなに綿密に調べても、聖文にはそれに耐え得る確かさがあります。研究しながら聖文に関して質問する能力が上達すればするほど、教える生徒に対しても同じように素晴らしい質問を投げかけられるようになります。

## 教える技術を磨き続ける

素晴らしい教師を見ると、彼らは教える才能を持って生まれたのだと思ってしまうことがあります。凡人には身につけることが難しい賜物<sup>たまもの</sup>を持っているように見えるのです。もちろん、教える能力は御霊<sup>みたま</sup>の賜物の一つです（モロナイ10：9-10参照）から、あなたが目にしているスキルの一部は天から与えられた賜物かもしれません。しかし、それは求める全ての人に与えられるものです。ですから、素晴らしい教師が持つスキルのほとんどは、研究と実践を通して皆さんも身につけることができます。効果的な質問をする技術を習得することもそのようなスキルの一つです。皆さんがよく祈りながらその能力を願い求めるなら、生徒に考えさせる質問を考え出すことには大きな価値があると分かり、そのような質問をする能力も伸びるのです。■

筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。

## 注

1. ヘンリー・B・アイリング “The Lord Will Multiply the Harvest” [衛星放送による教会教育システム宗教教育者への講話、1998年2月6日]、5-6



神の計画の一部として、  
 御父は新しくかつ永遠の聖約を確立され、  
 御自身の息子たちと娘たちが  
 御父の前に帰り、  
 永遠の命を受け継ぐことが  
 できるようにしていただきました。



確認の無償のソフトウェア・ソリューション・コンサルティング・キャビネット・システム。カリフォルニア州ロサンゼルス神楽坂の天倫の街に「ジェニー・ガーンズ」が運営する「STOCK/THINKSTOCK」



七十人  
兼コーリレーション部  
管理ディレクター  
マーカス・B・  
ナッシュ長老

# 新しくかつ永遠の 聖約

新しくかつ永遠の聖約を理解し、この聖約に従って生活することにより、  
わたしたちは永遠の命を受け継ぐのです。

編集部注 — この記事は、十二使徒定員会の特別な割り当てを受けてナッシュ長老が執筆した  
ものです。

## 人生の目的

人は皆、天の両親から愛されている息子、娘です。<sup>1</sup> 天の御父の救いの計画により、  
永遠の命を授かる機会が与えられます。永遠の命とは神が送っておられる生活のこと  
です。<sup>2</sup> これよりも大いなる賜物<sup>たまもの</sup>はありません。<sup>3</sup> 救いの計画について知ることで、人生  
の目的を理解することができます。そしてその目的に沿って生活すると、わたしたちは  
永遠の観点に立って物事を決定するようになります。

救いの計画と死すべき状態との関連性については、『リアホナ』2015年10月号に  
掲載された十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老によるその題材の記事の中  
で力強く説明されています。<sup>4</sup> 神の計画の一部として、御父は新しくかつ永遠の聖約を  
確立され、御自身の息子たちと娘たちが御父のもとに帰り、永遠の命を受け継ぐことが  
できるようにしてくださいました。

教義と聖約のはしがきで、主は次のように述べておられます。「主なるわたしは、地  
に住む者に下る災いを知っているので、わたしの僕<sup>しもべ</sup>ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、  
彼に天から語〔った。〕……

わたしの永遠の聖約が確立されるため〔である。〕<sup>5</sup>



この聖約は主から度々「新しくかつ永遠の聖約」と呼ばれ、イエス・キリストの完全な福音と人の救いに必要な全ての儀式と聖約が含まれています。<sup>6</sup> 主の新しくかつ永遠の聖約を地上に確立することが回復の第一の目的であるにもかかわらず、聖約の重要性や、聖約に従って生活する人に善いものが与えられるという約束について理解していない末日聖徒がいます。この記事の目的は、永遠の命を受け継ぐことができるように新しくかつ永遠の聖約について理解を深め、聖約に従って生活できるよう、わたしたち一人一人を助けることにあります。福音の最も大切な儀式と聖約の一つである永遠の結婚が、福音の新しくかつ永遠の聖約の中でどういう位置づけになるのかということについても説明します。

### 新しくかつ永遠の聖約の意味と目的

福音における聖約とは、神権の権能を持つ人により執り行われる神権の儀式を受け、それに伴う聖約の条件に従うことを同意した人（または人々）と神との間で交わされる約束、

新しくかつ  
永遠の聖約は、  
「福音の聖約と  
義務の全てを  
包含したものです。」

契約、合意のことを言います。その条件は、神が定められたものです。<sup>7</sup>

新しくかつ永遠の聖約は、古代に与えられ、<sup>8</sup>そしてこの末の日にこの地上に回復された「福音の聖約と義務の全てを包含したものです。」<sup>9</sup> このことは、教義と聖約第66章2節に説明されています。「まことに、わたしはあなたに言う。あなたはわたしの永遠の聖約、すなわち、人の子らのもとに送り出されたわたしの完全な福音を受け入れているので、幸いである。それは、昔の使徒たちと預言者たちによって書き記されたとおり、人の子らが命を得て、終わりの時に明らかにされる栄光にあずかる者とされるためである。」<sup>10</sup> この聖約は、最後の神権時代に回復されたので「新しく」と呼ばれ、永遠にわたって効力を持つので「永遠」と呼ばれるのです。<sup>11</sup>

聖文には、主が新しくかつ永遠の聖約全体について話される場面と「一つの」新しくかつ永遠の聖約について話される場面の両方があります。例えば、教義と聖約第22章1節では、主はバプテスマが「一つの新しく

かつ永遠の聖約、すなわち初めからあったものである」と述べておられます。教義と聖約第132章4節では、永遠の結婚について同様に「一つの新しくかつ永遠の聖約」とあると述べておられます。「一つの」新しくかつ永遠の聖約について話されるとき、主は御自身の福音に含まれる多くの聖約の中の一つについて述べられます。

主が新しくかつ永遠の聖約全体について話されるときには、イエス・キリストの完全な福音について述べておられるのであって、そこには人類の救いと昇栄に必要な全ての儀式と聖約が含まれます。バプテスマや永遠の結婚が、新しくかつ永遠の聖約全体を表すわけではありません。むしろ、全体の中の一部を表すのです。

### 新しくかつ永遠の聖約を交わして 最後まで堪え忍ぶ者は永遠の命を受ける

正しい神権の権能により執り行われる福音の儀式を受け、約束の聖なる御霊により結び固められ、<sup>12</sup>その後、儀式に伴う聖約を守る人には、大いなる永遠の祝福が約束されています。この祝福には、罪の赦し、<sup>13</sup>神性の力、<sup>14</sup>そして聖霊を伴うこと、<sup>15</sup>その賜物に伴う導き、<sup>16</sup>靈感、慰め、平安、希望、聖めが含まれます。

神のあらゆる祝福と賜物の中で最も大いなるものは永遠の命です。すなわち、神が送っておられる生活です。<sup>17</sup>この賜物は、全ての福音の儀式を受け、新しくかつ永遠の聖約に含まれる聖約を守る人にだけ与えられます。<sup>18</sup>主は次のように言っておられます。「この新しくかつ永遠の聖約〔は〕……わたしの完全な栄光のために定められたものであ〔る〕。」<sup>19</sup>誠に、新しくかつ永遠の聖約に入り、最後まで堪え忍ぶ人は、「第一の復活に出て来るであろう。……そして、王位、王国、公国、および力、主権、すべての高い所と深い所を受け継ぐであろう。」<sup>20</sup>主は力強く宣言しておられます。「わたしの僕が彼らに授けたすべての事柄は何であろうと、この世においても永遠にわたっても、彼らに行われ、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを

通り過ぎ、彼らの頭<sup>こうべ</sup>に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。それで、彼らは神々となる。」<sup>21</sup>

要約すれば、新しくかつ永遠の聖約に入り、最後まで忠実に堪え忍ぶ人は、(1) 神の完全な栄光を受け、(2) この世においても永遠にわたっても、神性の力を享受し、<sup>22</sup> (3) 昇栄し、(4) 永遠の結婚と、子孫が増えることから喜びを受け、(5) 神々となるということです。すなわち、これらの祝福は永遠の命という賜物を受けることで結実するのです。

### わたしたちは新しくかつ永遠の聖約に おけるそれぞれの聖約に従わなければ ならない

主は、新しくかつ永遠の聖約の中に定められた主の律法に従うことよってのみ、これらの最高の祝福を受けることができると明確に宣言されました。「この新しくかつ永遠の聖約〔は〕……わたしの完全な栄光のために定められたものであ〔る〕。この完全な栄光を受ける者はその律法に従わなければならない。そうしなければ罰の定めを受ける、と主なる神は言う。」<sup>23</sup>主はまた次のように宣言しておられます。「わたしから祝福を受けたいと思う者は皆、その祝福のために定められた律法とその条件に従わなければならない。その律法とその条件は、創世の前から定められたものである。」<sup>24</sup>教義と聖約の同じ章の中で、主はこの原則を繰り返しておられます。「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはわたしの律法に従わなければ、この栄光に達することができない。」<sup>25</sup>

忠実な人のために主が用意されている栄光を受けるためには、神の律法に従わなければならないというきわめて明快な条件が定められています。この条件は、新しくかつ永遠の聖約に含まれる全ての儀式と聖約に当てはまります。例えば、わたしがバプテスマの儀式を受けず、その聖約を守らなければ、わたしは罰の定めを受けるでしょう。それは、わたしは進歩することができず、神の完全な栄光を受け

大いなる永遠の祝福が、  
福音の儀式を受ける人々に  
約束されています。

継ぐことができないという意味です。同様に、わたしが神殿の儀式を受けず、それに伴う聖約を守らなければ、また実際に、どの福音の儀式であってもそれを受けずにいるならば、あるいは、儀式に伴う聖約を一つでも守らずにいるならば、わたしは昇栄することができません。つまり、罰の定めを受け、進歩が止まるということです。端的に言えば、永遠の命を得たいと望むなら、わたしは福音のあらゆる儀式を受け、それに伴うあらゆる聖約を守らなければならないということなのです。

わたしたちが末日聖徒として従うことに同意している聖約の条件は、以下の4つの範疇に分類することができます。(1) 救い主の御名を受け、いつも主を覚え、主の模範に従う、(2) 主の戒めを全て守る、(3) 自分を犠牲にすることがあっても、主の救いの業の一部として神の子供たちに喜んで奉仕する、(4) 自分自身と自分が持っている全てを主の業のためにささげる。

神の律法によれば、福音(と福音から得られる栄光)とは、神権の権能によって執り行われる特定の儀式を通して受けるものです。神性の力がわたしたちの生活に現れるのは、神権の儀式を通してであり、それはその儀式に伴う聖約を守った度合いに応じて現れるものです。ちょうどエンジンが車に動く力を与え、ある場所から別の場所に人を運ぶことができるように、聖約は儀式に力を、すなわち命に至る力を与えます。端的に言うと、受ける儀式に伴う聖約を注意深く、そして忠実に守る度合いに応じて、キリストの贖い<sup>26</sup>を通して神の恵みにより、神の知識が増し加わり、「神性の力」<sup>27</sup>を享受するのです。

### 新しくかつ永遠の聖約における結婚の位置づけ

教義と聖約第132章4節で、主は「一つの」新しくかつ永遠の聖約を示そうと言われ、こう付け加えられました。「もしその聖約に従わなければ、あなたがたは罰の定めを受ける。だれもこの聖約を拒みながら、わたしの栄光に入るのを許されることはあり得ないからである。」この言葉は、正しい神権の権能<sup>28</sup>により執り行われる永遠の結婚の

聖約<sup>29</sup>について述べています。それは、新しくかつ永遠の聖約全体(イエス・キリストの回復された完全な福音)<sup>30</sup>の中心のかつ必要不可欠な要素です。主は、この聖約を拒む者は永遠の命を受けないと言われました。そう明言することで、永遠の結婚の聖約がきわめて大切であることを強調されました。<sup>31</sup>

教会員を含む一部の人は、教義と聖約第132章4節を間違っ

て読み取り、昇栄のために多妻結婚が必要であると解釈しています。その結果、多妻結婚が永遠の世界で昇栄するために必要な前提条件であると信じているのです。しかし、この考え方は啓示とは一致しません。教義と聖約第131章と第132章に記録されているように、主は、結び固めは一人の男性と一人の女性との間で行われるものであることを明確に宣言されたうえで永遠の結婚の律法について教えられました(教義と聖約132:4-7, 15-25参照)。一人の男性と一人の女性との結婚という形で永遠の結婚の律法を説明し、主は昇栄の祝福を明確にされました。すなわち、正しい神権の権能により執り行われる永遠の結婚の聖約にふさわしく入る男性と女性のそれぞれが受ける昇栄の祝福は、その結婚が多妻制であるか、一夫一婦制であるかに関係なく授けられるものなのです。<sup>32</sup>

教義と聖約第132章19節では、永遠の命は神権の権能により結び固められ、聖約を守る一夫一婦の夫婦に約束されていること、またどのような追加の条件や要求事項もないことが明確に述べられています。この方法により結び固められ、聖約を忠実に守る男性と女性は誰であっても、昇栄にあずかります。<sup>33</sup> 過去に教会で行われた結婚の儀式は、ここで説明した永遠の結婚の教義と一致しています。<sup>34</sup> 夫婦を永遠に結び固める儀式には聖約と祝福が伴いますが、それは一夫一婦制下の結婚であっても、過去に命じられて正しく行われた多妻結婚であっても、まったく同じなのです。死すべき状態のときに結び固めを受ける機会がなかった忠実な人にも、この世の生涯の後に同じ聖約と祝福が与えられます。<sup>35</sup>

神権の儀式を通して、  
生活に  
神性の力が現れます。



一人の男性と一人の女性との間における永遠の結婚の律法と聖約を明らかにされた主は、その後、ジョセフ・スミスにこう教えられました。主から正式に聖任された（正しい神権の鍵を持つ）預言者を通して主から正当と認められ、または命じられたとき、一人の男性は永遠の結婚の聖約の中で、義にかなって二人以上の妻と結婚することができるというものです。<sup>36</sup> 多妻結婚を執り行う権限と命令は、主によって古代のアブラハムやその他の預言者に与えられましたが、<sup>37</sup> 預言者ジョセフ・スミスにも同じように与えられたのです。「わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフに一つの務めを与え、万事を元どおりにする。」<sup>38</sup>

それから何年もたって、主が教会員の多妻結婚（言い換えるなら、生存している二人以上の伴侶と結び固める結婚制度）を行うための主の承認と命令とを取り消されたのは、ウィルフォード・ウッドラフ大管長（1807 - 1898年）が1890年に公式の宣言<sup>39</sup>を発表したときのことでした。これにより、多妻結婚の

「日の栄えの結婚は、  
来世において  
完全な栄光を  
受けるために  
必要不可欠な  
ものです。」

制度は終わりを告げました。それは、いかなる教会員であっても、生存している二人以上の伴侶と結婚したり、結び固められたりすることはできないという意味です。この公式の宣言が、既に亡くなった妻に結び固められているふさわしい男性は誰であっても、生存している別の伴侶と結び固められることを妨げるものではないということに注目するのは大切です。この原則は、主によって正式に召された代表者、すなわち大管長であり預言者である人を通して主が宣言され、権限が与えられた場合を除き、一夫一婦制が結婚に関する主の標準であるという啓示された教義と一致しています。<sup>40</sup>

「多妻結婚または日の栄えの結婚は、来るべき世において完全な栄光を受けるために必要不可欠なのですか」という質問に大管長会を代表して答え、チャールズ・W・ベンローズ管長（1832 - 1925年）はこう書いています。「日の栄えの結婚は、関連する啓示の中で説明されているとおり、来世において完全な栄光を受けるために必要不可欠なものです。」



しかし、多妻結婚も必要不可欠であると述べられていません。」<sup>41</sup>

1933年に大管長会はこう宣言しています。「日の栄えの結婚、すなわちこの世と永遠にわたる結婚と、一夫多妻制や多妻結婚とは、同義語ではありません。主の言葉と教会の律法に従って神殿で厳粛に執り行われるこの世と永遠にわたる一夫一婦の結婚は、日の栄えの結婚です。」<sup>42</sup>

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915 - 1985年）の以下の記述は、この声明と調和しています。「多妻結婚は、救いや昇栄に必要な不可欠ではありません。ニーファイとその民は、二人以上の妻を持つことを許されませんでした。それでも彼らは、全ての人に主が用意しておられるあらゆる祝福を永遠に享受することができました。現代において、主は啓示により昇栄に関わる全ての教義を要約し、一人の男性と一人の女性との間の結婚の教義を説明されました。（教義と聖約132:1-28）その後、主は複数の妻を持つことに関する原則を付け加えられ、そのよう

新しくかつ  
永遠の聖約の条件に  
従って生きる人は全て、  
この世においては  
喜びと平和という報いを、  
そして  
来るべき世においては  
永遠の命という報いを  
受けるのです。

な結婚は、大管長によって正式に認められた場合にのみ有効であるという特定の条件を付けられたのです。（教義と聖約132:7, 29-66）」<sup>43</sup>

今日、主の預言者を通して主から命じられているとおおり、末日聖徒イエス・キリスト教会はもはや多妻結婚を実施しておらず、多妻結婚を実施している人は教会に加入することも、教会員としてとどまることもできません。教会は、主の預言者を通して主が正当であると認めて命じられるときを除き、一夫一婦制が結婚に関する神の標準であることを断言しています。教会は、多妻結婚を行うことが昇栄に必要な必要であるとは教えていません。

#### まとめ

来世の生活についてわたしたちが知らないことはたくさんあります。しかし、わたしたちがよく知っていることは、新しくかつ永遠の聖約を交わしその聖約にとどまることは、永遠の命を受け継ぐために必要であるということです。また、「ここで〔死すべき状態で〕わた

私たちの間にある交わりが、そこでも〔次の世でも〕わたしたちの間にある。ただし、その交わりには……永遠の栄光が伴う」ことも知っています。<sup>44</sup>

新しくかつ永遠の聖約を通して得られる神の最高の祝福は、御父の計画の壮大な目的とこの末日におけるイエス・キリストの教会の回復の中心を成すものです。この栄光に満ちた聖約が忠実な人の心にもたらす「完全な希望の輝き」<sup>45</sup>は、「人々にとってその心をしっかりとした不動のものにするいかり錨となる。そしてそのような人々はいつも多くの善い行いをし、神をあがめるようになる」のです。<sup>46</sup> 新しくかつ永遠の聖約の条件に従って生きる人は全て、この世においては喜びと平和という報いを、そして来るべき世においては永遠の命という報いを受けるのです。<sup>47</sup> ■

#### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129 参照。God Loveth His Children (パンフレット, 2007年), 1も参照
2. ロバート・D・ヘイルズ「救いの計画——わたしたちを導く神聖な知識の宝」『リアホナ』2015年10月号, 32-39 参照
3. 教義と聖約 14:7 参照
4. ロバート・D・ヘイルズ「救いの計画——わたしたちを導く神聖な知識の宝」32-39 参照
5. 教義と聖約 1:17, 22
6. 教義と聖約 66:2
7. 『聖句ガイド』『聖約』の項参照
8. エレミヤ 32:40; 教義と聖約 22:1 参照
9. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻 (1954-1956年), 第1巻, 156
10. 強調付加。教義と聖約 39:11; 45:9; 49:9; 88:131, 133; 101:39も参照
11. 教義と聖約 132:7 参照
12. ジョセフ・フィールディング・スミス大管長 (1876-1972年) は次のように教えている。「約束の聖なる御霊とは聖霊である。聖霊は、全ての儀式、すなわちバプテスマ、確認、聖任、結婚に承認の印を押される。この約束とは、忠実であれば祝福が得られるということである。人が聖約を破るなら、それがバプテスマであろうと、聖任、結婚、あるいはその他の儀式であろうと、御霊は承認の印を取り下げ、祝福は得られない。全ての儀式は、忠実であることを条件に報いが与えられるという約束で結び固められる。しかし、聖約が破られた場合、聖なる御霊は承認の印を取り下げられる。」(*Doctrines of Salvation*, 第1巻, 45。教義と聖約 76:52-53; 132:7も参照)
13. 使徒 2:38; 2 ニーファイ 31:17; モロナイ 8:25 参照
14. 教義と聖約 84:19-21 参照。モロナイ 10:32-33も参照
15. ヨハネ 14:26; 教義と聖約 121:45-46 参照
16. 2 ニーファイ 32:5; 3 ニーファイ 27:20; モロナイ 8:26; 教義と聖約 11:13; モーセ 6:59-61 参照
17. 「永遠の命とは神の命です。すなわち、神が送っておられる生活なのです。」(ハロルド・B・リー, *Conference Report*, 1956年10月, 61) 「神殿でこの世にあって永遠にわたっても結婚する人は、永遠の命の祝福を受けるのです。わたしはこの永遠の命を強調します。永遠の命とは神の命です。すなわち、神のようになることです。」(ジョセフ・フィールディング・スミス, *Answers to Gospel Questions*, ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編, 全5巻 (1957-1966年), 第4巻, 197
18. 教義と聖約 14:7 参照
19. 教義と聖約 132:6
20. 教義と聖約 132:19
21. 教義と聖約 132:19-20

22. 教義と聖約 84:19-21 参照
23. 教義と聖約 132:6
24. 教義と聖約 132:5
25. 教義と聖約 132:21
26. モロナイ 10:32-33 参照
27. 教義と聖約 84:20-21
28. 教義と聖約 132:4, 15 参照
29. 教義と聖約 132:7, 18 参照
30. 教義と聖約 132:6-7 参照。教義と聖約 66:2も参照
31. この聖約を「拒む」人は、永遠の命が得られないことに注意してください。それとは対照的に、この世で永遠の結婚をする機会がなかった人には、次の世で永遠の結婚をする機会が与えられることになります。以下の注 35も参照。
32. 教義と聖約 132:15-25 参照
33. 一夫一婦制度の下で永遠にわたって結び固められ、それに伴う聖約を守る夫婦は昇栄することができるかと断言している例を他にも探すためには、教義と聖約第131章を参照。
34. 『聖句ガイド』『結婚——多妻結婚』の項参照, topics.lds.org
35. 「忠実な生活を送って亡くなった末日聖徒が、機会を与えられなかったために、ある事柄をなし得なかった場合、……来世で失うものは何もありません。言い換えれば、若い男性や女性が結婚する機会がないまま、死に至るまで忠実に生活するならば、機会を得て結婚した男女が受けるであろう祝福と昇栄と栄光の全てにあずかるのです。これは疑いもなく確かなことです。」(『歴代大管長の教え——ロレンゾ・スノー』116 参照)
36. 教義と聖約 132:34-35, 37-39 参照
37. 教義と聖約 132:34-39 参照
38. 教義と聖約 132:40
39. 公式の宣言 1 参照
40. モルモン書ヤコブ 2:27-30 参照。主は多妻結婚の実施を命じたり、正当であると認めたりする理由について全て説明しておられるわけではないが、教義と聖約第132章で以下の2つの理由を示しておられる。(1) アブラハムの聖約に対する約束を成就するため、(2) 「増え〔て〕、地に満ち〔る〕」ため (教義と聖約 132:63。34節も参照) モルモン書ヤコブ 2:30 には、主がときどき多妻結婚の実施を命じられる理由について述べた最も簡潔な説明がある。「万軍の主は言われる。『将来わたしのために子孫を起こしたいと思う時が来れば、わたしは民に命じよう。その命令がない間は、民はこれらのごとに聞き従わなければならない。』」(『聖句ガイド』『結婚——多妻結婚』の項参照, topics.lds.org)
41. チャールズ・W・ベンローズ, “Peculiar Questions Briefly Answered,” *Improvement Era*, 1912年9月号, 1042, 強調付加
42. ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻 (1965-1975年), 第5巻, 329
43. ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*, 第2版 (1966年), 578-579, 強調付加。十二使徒定員会のメルビン・J・バラード長老 (1873-1939年) が語った次の言葉も参照。「永遠に増し加えることを拒まれた人々は、神のようになることができません。神が神であられる理由は、他の要素に加えて、永遠に増し加えることだからです。末日聖徒は、この世においても永遠にわたっても、一人の男性が一人の女性に結び固められる結婚の聖約が永遠であることを明確に理解する必要があります。そうすれば、この点について混乱し、二人以上の女性と結び固められる必要があると考えることはありません。それが少なくとも次のことを意味しているのは間違いないでしょう。それは、一人の男性と一人の女性が聖なる神権の力と、この世においても永遠にわたって聖霊の承認の印によりともに結び固められ、その後、聖約を守り続けることによって、二人は日の栄えの最高の階級を受けられる候補者となり、そして終わるなく永遠に増し加えるという約束は、そのような御父の子供たちへのみ与えられるということです。」(*The Three Degrees of Glory: A Discourse by Melvin J. Ballard*, 1922年9月22日, 10, 強調付加)
44. 教義と聖約 130:2
45. 2 ニーファイ 31:20
46. エテル 12:4
47. 教義と聖約 59:23 参照

# 「わたしは神に 約束しました」

南アメリカ南地域、教会歴史アドバイザー  
ネストル・クルベロ

ビルヒリオ・シマローン・サラサールは、エクアドル北部にあるチャチ先住民族の部落の指導者でした。今日まで、チャチ族は依然として独特な生活様式を保っており、部族評議会と部族長、裁判官から成る独自の司法制度を維持しています。この指導者の役割は、何世代にもわたって世襲された、典型的な榮譽ある地位であり、それは部族の尊敬と敬意の深い土台の上に築かれています。この地位に対して部族が抱く尊敬の念は、信頼という形で世代から世代へと大切に受け継がれてきました。

しかし、ビルヒリオ・シマローンの人生設計は1996年に変わりました。その年、キニンデで勉強していた息子のウィルソンが、モルモン書を携え、新たに信奉するようになった宗教に対する強い証をもって帰って来たのです。真理を見いだした者として信仰と情熱に満ちたウィルソンは、福音のメッセージを家族に伝えました。そして、家族はカナンデ川でバプテスマを受けたのです。

ところが、シマローン家族がチャチ族の友人や近隣の人たちに福音を伝え始めると、部族内に対立が生じ、それは激しさを増していきました。チャチ族の中には、ビルヒリオ・シマローンはこの入信によって異端者になったと感じた者たちがおり、彼らはビルヒリオを

エクアドルのグアヤカナに

教会が設立されたのは大部分、

ビルヒリオ・シマローンのおかげです。

シマローンは、

自分の証<sup>あかし</sup>に忠実であろうとするがゆえに、  
難しい決断を下しました。

襲撃しようとしてまで考えていたのです。また、部族長であるビルヒリオは部族内に分裂を引き起こすような宗教に加わるべきではないと感じている人もいました。この問題のため、ビルヒリオは部族評議会による裁判にかけられることになりました。これは、ビルヒリオの人生で最もつらい経験だったことでしょう。



シマローン家族の伝道活動のおかげで、1999年5月、カナンデ川で60人がバプテスマを受けました。

このときのことをウィルソンは次のように語っています。「部族評議会では、皆が満場一致で父にこう言ったのです。『イエス・キリストの教会との関係を断てば、我々の部族長のままでいられる。教会への入信は撤回してもらえないか。』父は言いました。『わたしは神に約束した。人が神に約束したならば、それは取り下げることができないのだ。教会をやめることはできない。わたしのことをチャチの部族を分裂させた部族長だと思うのであれば、わたしの民よ、今日、わたしに代わる別の人を選んでほしい。』こう言うと、父はわたしの目の前で涙を流しました。評議会は静まりかえり、5分たっても言葉を発する者はいませんでした。その後、誰かが言いました。『では、部族長、辞めてもらおう。』父はゆっくりと立ち上がり、母と妹、そしてわたしもそれに続き、評議会后にしました。』

シマローン兄弟が部族長の地位を剥奪されてからというもの、家族は苦労の連続でした。かつて敬ってくれた多くの人から蔑まれるのを感じながらも、この家族は受け入れた信仰に固く立ち、非常な熱意を込めて福音を宣べ伝えました。ステーク会長のオマール・イントリアーゴ・セサルはこう説明しています。「彼らはこの部族の全家族を1軒1軒回って福音を説き始めました。グアヤカナ支部は、ビルヒリオ・シマローンと息子のウィルソンで始まりました。教会が設立されたのは、シマローン兄弟の信仰と強さ、証のおかげです。

それからわずか数年後、シマローン家族の努力は大きな実を結ぶこととなります。1999年5月30日は、グアヤカナにとって記念すべき日となりました。大きなバプテスマ会が開かれたのです。イントリアーゴ会長は、その日のことをこう

回想しています。「その輝かしい日、わたしたちはカナデ川のほとりに、伝道部のロベルト・ガルシア会長と一緒に到着しました。二人の宣教師が60人にバプテスマを施したのです。次にガルシア伝道部会長が一方の岸、わたしがもう一方の岸で、バプテスマを受けた人全員を教会員として確認しました。それは、わたしの人生から決して消えない特権でした。」

ビルヒリオは自分の証に忠実であり続けるために部族長を降りましたが、別の受け継ぎを次の世代に託すことができました。すなわち、福音を確立することによって人々に仕えるという受け継ぎを託したのです。ウィルソンが専任宣教師として奉仕し、その後グアヤカナに帰還してルースと結婚し、子供をもうけるのを、彼は見届けました。その後何年かたって、ビルヒリオは亡くなりましたが、最後まで教会に忠実でした。彼の妻、マリア・ファナ・アパは、2014年に息子がグアヤカナで支部会長として奉仕するのを見届けました。

ウィルソンは、父親が自分に残したいと常に思っていた受け継ぎのことを重々承知していました。彼はこう言っています。「先祖は常に部族長であり、軍の長であり、屈強な戦士でした。このような先祖の全ての血は全て今、わたしの中に流れていると感じます。しかし、わたしは今、教会員ですから、こうした力は全て、イエス・キリストの良い兵卒となるのに役立ってきました。」■



上——新しい世代の指導者、グアヤカナ支部のウィルソン・シマローンとルース夫人（左側は支部の会員たち）



十二使徒定員会  
D・トッド・  
クリストファーソン長老

# 安かれ

このクリスマスの季節、しばらく静かなひとときを過ごして、  
救い主の御<sup>みたま</sup>霊の温もりを感じ、  
皆さんの奉仕とささげ物と生活が価値あるものであるという  
御霊からの確信を受けていただきたいと思います。

**末**日聖徒が家族、ワード、そして天の御父のために行っている奉仕と犠牲のささげ物について深く考えるたびに、わたしは勇気づけられます。それは聖別された神聖な行為です。主がわたしたちのささげ物を価値ある、目的にかなったものと見てくださり、受け入れ、受け取ってくださること、これほど大きな名誉はないと、わたしは思います。

それこそが御父から受けるすばらしい称賛です。御父も御子のことを「わたしの愛する子、わたしの心にかなう者」と称賛されました（3ニーファイ 11：7。マタイ 3：17；マルコ 1：11；ルカ 9：35；教義と聖約 93：15；ジョセフ・スミス—歴史 1：17も参照）。何とすばらしい称号でしょう。神に「わたしの愛する息子」、「わたしの愛する娘」と呼んでいただいて、さらに、ささげ物が神に受け入れられ、「わたしの心にかなう者である」と言っていただけることほど大きな名誉はありません。

このクリスマスの季節に、主が皆さんのささげ物をどれほど高く評価しておられるのか、皆さんの価値が主の目にどれほど偉大なものなのか、皆さんが神の息子あるいは娘としてどれほど愛される存在なのか、皆さんが理解できるよう祈ります。またわたしたちに対する主の思いを知ることで、主の目にかなっているという大きな慰めと平安、そして確信を抱くことができるよう祈ります。





## 平安という 救い主の贈り物

「悲しみの人であり、病を知っておられた主は、悩めるすべての人に語りかけ、平安という贈り物を与えてくださいます。『わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。』(ヨハネ 14:27)」

トーマス・S・モンソン  
「大切な贈り物」  
『リアホナ』2006年12月号, 5

## 救い主の降誕

イエス・キリストの降誕について語る時、その後起こったことに思いが及んでも不思議ではありません。主はわたしたちをより確実に救うためにさまざまな事柄を経験し、苦しみを受けられ、その全ての頂点となったのが十字架と復活でした。ですから主の降誕には限りない重大な意義があるのです(アルマ7:11-12参照)。しかしイエスの使命はそれだけではありませんでした。すばらしい奉仕の業、驚くべき教導の業がありました。人々を苦しみから解放し、悲しむ者に喜びを与えられました。その喜びは今も与えられています。

わたしはその後に起こることについて考えるのも好きです。そのときのことについて述べた、わたしの好きな聖句のうちの二つが、黙示録第7章の最後にあります。

「彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。

御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいとして下さるであろう。」(黙示7:16-17。21:4も参照)

この聖句を読むと、将来何が起こるのか、また大いなる福千年とそれに続くキリストによる日の栄えの統治の間の様子について聖なる希望が湧き上がってきます。

しかし、こうしたことがすべて起こるにしても、ただかいばおけの中のあの幼子<sup>おきなご</sup>について考えることこそ、この時季にふさわしいことだと思います。将来起こることについて心配しすぎたり、とらわれすぎたりせず、ただあの幼子について考えてください。静かで落ち着いた時間をもって、主の生涯がどのように始まったのか深く考えてください。それは天の預言の成就ではありませんでしたが、主にとっては地上における生活の始まりでした。

くつろいだ気持ちで静かに、この幼子のことを心に思い描く時間を取ってください。主の生涯で、またあなたの人生でその後起こることについて心配しすぎたり、困惑したりしないでください。その代わり、恐らくは世界の歴史で最も平安な瞬間のことを深く考える穏やかな時間を作ってください。そのとき、「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」というおとずれを聞いて、天全体が喜びにあふれたのです(ルカ2:14)。

## 御霊がもたらすぬくもりを得る

数年前のこと、南アフリカの英国国教会大主教であるデズモンド・ツツ氏を招いた



ラジオのインタビューを聞きました。彼は、南アフリカでアパルトヘイト後の和解をテーマに、娘との共著で本を出版したばかりでした。<sup>1</sup>人は誰でも善の心を持っているというのが、その本の基本的なメッセージです。

インタビュー中に、司会者がツツ大主教に、次のような靈感あふれる鋭い質問をしました。「年を重ねるとともに、神とあなたの関係は変化したと思いますか。」

ツツ大主教は一呼吸置いてから、こう言いました。「はい。神の御前<sup>みまへ</sup>では以前より黙していることができるようになってきました。」

若い頃は、願い事と心配事のリストを持つ



「その代わりに、  
安らかな気持ちで、  
世界の歴史で  
恐らく最も静寂な瞬間、  
天が全て  
次のメッセージで  
喜びにあふれた瞬間について  
考えてください。  
『いと高きところでは、  
神に栄光があるように、  
地の上では、  
み心にかなう人々に  
平和があるように。』」

で祈っていたと言うのです。「一種の  
買い物一覧表」と彼が呼ぶものを用意  
して祈っていたのです。しかし、今は  
「祈りを通して神に近づこうとしている  
のだと思います」と語ります。「冬、火  
の前に座っているときは、ただ火の前  
にいただけでいいのです。あれこれ  
考える必要はありません。火が温めて  
くれるからです。』<sup>2</sup>

これはなかなか良いとえだと思ひ  
ます。冬、火が温めてくれるように、  
ただ主と座って、主に温めていただき  
ましょう。主と一緒にいるために、  
完全でなくてもいいのです。この地上  
に生を受けた誰よりも偉大で、何かに  
最も秀でていなければならないという  
ことはないのです。

このクリスマスの季節、しばらく  
静かなひとときを過ごして、救い主の  
御霊の温もりを感じ、皆さんの奉仕と  
ささげ物と生活が価値あるものである  
という御霊からの確信を受けていた  
だきたいと願っています。あの幼子に

思いをはせながら静かに座り、霊的に  
強められ、これから起こるあらゆる  
ことに、よりよく備えられた人となっ  
てください。その瞬間を休息、回復、確  
認、再生の瞬間としてください。

イエス・キリストはわたしたちと  
全人類の生活の、さらには存在の目的  
そのものの中心におられます。クリス  
マスのこの時季、皆さんがわたしとと  
もにその救い主イエス・キリストを証  
するとき、神がその祝福を授けてくだ  
さいますように。

わたしたちは主を礼拝し、主に  
仕え、主を愛します。このクリスマスの  
時季に、そしてどんなときも、皆さんの  
ささげ物を通して、皆さんの生活がそ  
の愛を示すものとなりますように。■

#### 注

1. デズモンド・ツツとムフォ・ツツ, *Made for Goodness: And Why This Makes All the Difference* (2011年)
2. デズモンド・ツツ, "Desmond Tutu, Insisting We Are 'Made for Goodness'" (ルネイ・モンテューニュによる NPR インタビュー, 2010年5月11日), npr.org で引用

## 神殿まで走る

1999年の12月、わたしたち夫婦は毎年恒例のクリスマス神殿参入に向けて、スイス・ベルン神殿への旅の準備をしていました。この旅行は、結婚してすぐに始めた特別な伝統で、救い主の降誕を記念する方法として行っているものです。

わたしたちは神殿から車で8時間ほどの所に住んでいますが、その年は出発前から天候が悪化していました。木々が根こそぎ倒れ、身を切るような風が吹きすさぶ中、凍結した道路を行くのですから、非常に危険な旅になることが予想されました。

わたしは不安になりました。主がわたしたちに神殿に参入するよう望んでおられると知っているのに、自分たちがなぜこのように多くの困難に直面しているのか理解できませんでした。主はわたしたちのために道を切り開い

てはくださらないのでしょうか。

夫のアントニオとわたしは子供たちとひざまずいて祈り、天の御父が別の指示をくださらない限り、翌日ベルンに向けて出発すると御父に告げました。

祈りの後、アントニオが言いました。「道が本当に通れない状態なら、戻って来よう。」

自分たちの決断は正しいと感じていましたが、わたしはまだ心配でした。翌朝、心配でたまらなくなったわたしは、もう一度祈りたいと思いました。アントニオは、もう祈りの答えを受けていると言いながらも、優しく、そして忍耐強く、隣にひざまずいてくれました。

出発したとき、まだ夜が明け始めたばかりで、頭上には暗黒の雲がかかっていた。運転していくうち、山の近くにほんの少し青空が見えました。

雲の合間から、太陽の光が漏れ始めました。

そのわずかな日の光がわたしの揺れ動く信仰を強めてくれました。奇跡的に太陽が顔を出し、気温も上がりました。霧も、氷も、風もありません。あるのは晴れ上がった暖かい冬の日だけでした。わたしの目に涙があふれました。天の御父がわたしたちの祈りにこたえてくださったように思えたからです。

ベルンに到着すると大雪が降り始め、滞在中はずっと雪がやみませんでした。翌朝夜明け前に神殿に向かっていると、雪は吹雪に変わりました。一瞬不安がよぎりましたが、わたしは神殿に通じる道の歩道沿いに走り始めました。

そのとき、ある考えが浮かびました。「これがあるべき



## わたしのクリスマスの奇跡

姿なのだ。世はわたしたちに苦難の嵐を送るけれども、わたしたちは主の宮にある主の平安へ向かって走って行かなければならないのだ」と。

その年のクリスマス、神殿ですばらしい時間を過ごしながらも、わたしたちは帰りの旅の心配をしていました。まだ雪が降り続き、一番下の息子が高熱を出していたからです。しかし、出発の日になると、雪は奇跡的にやみ、神権の祝福を受けてから息子の熱も下がっていました。

家族が神殿のもたらす平安に支えられている中、次のような聖書の聖句が脳裏に浮かびました。「主にとって不可能なことがありますか。」(創世18:14) わたしは感謝の思いで満たされながら、つくづく思いました。いや、不可能なことなどありはしない、と。■  
アントネラ・トレピサン(イタリア、ウディネ)

1968年の秋、両親はビショップからユタ・プロボ神殿の建設資金に献金する約束ができないかと尋ねられました。現在はワードで献金を募ることはありませんが、当時はよく行われていました。父は1,000ドル献金すると約束をしました。大した額ではないように思うかもしれませんが、わたしたちには大金でした。大学生の息子一人と伝道中の息子一人、そして家にいる5人の子供を養うため、父は仕事を二つ掛け持ちしていました。

家族評議会で父が1,000ドルを神殿建設資金に献金する約束をしたと話したとき、わたしはこう思ったのを覚えています。「百万ドル献金すると約束したらよかったのに。どちらも無理な金額であるのは変わらないのだから。」父がそれほどの大金を約束したことが信じられませんでした。しかも、お金を集める猶予は4か月もありません。

わたしたちは次の4つの方法でお金を工面することにしました。まず、その年のクリスマスプレゼントをやめて、プレゼントにかけるはずだったお金を献金する。わたしと姉たちは子守りをして得るお金を献金する。弟はいろいろな仕事をしてお金を稼ぐ。数週間、家族みんなで地元の農場に行き、りんごの収穫を手伝い、報酬を献金する。

わたしたちは献金を入れておくために靴の空き箱を包装し、神殿の写真とイエス・キリストの絵を貼って、小さなテーブルの上に置きました。献金の額が増えるにつれ、わたしたちの胸は高鳴りました。わたしたちの焦点は、自分たちが欲しいプレゼントから救い主のための贈り物へと変わっていきま

した。主が神の子らに自らの命という贈り物を与えてくださったことに心から感謝していたので、お返しとして主に何かを差し上げたかったのです。

りんごの収穫はアルバイトとして最も大変でしたが、実り多いものになりました。とても疲れる仕事でしたが、家族で一緒に時間を過ごすことで強められ、報われました。わたしたちは「互いに和合し、愛し合って結ばれた」心を持ち始めたのです(モーサヤ18:21)。

クリスマスが近づくと、わたしは何度も献金箱の中をのぞいてみましたが、いつもがっかりしました。努力のいかなく、金額は目標に程遠かったのです。

でも、プレゼントをもらうのをやめるといふ決断については、とても良い気持ちを感じていました。自分たちの犠牲が微々たるものだと知っていましたが、救い主が喜んでくださると信じていました。

ある日父が、目標を達成できたので献金してきたと発表しました。父が短期間で、どのように残りのお金を作ることができたのか、わたしは今もって知りません。

あのクリスマスに父が約束を守ることができたことは奇跡でした。しかし、わたしにとって本当の奇跡は、もらう代わりに与えることを通して救い主に近づけたことです。それはどんなクリスマスプレゼントよりすばらしいことでした。7年後、プロボ神殿の聖壇でひざまずいて夫と永遠に結び固められたとき、わたしはその時のお返しを頂くことができました。■

ジョン・バートン・ストット  
(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)



翌朝夜明け前に  
神殿に向かってみると、  
雪は吹雪に変わりました。

箱を開けると、  
中にはクリスマス柄の  
手作りのエプロンが  
入っていました。



## 犠牲のエプロン

何年も前のあるクリスマスのことです。心配事がたくさんあってクリスマスを楽しめないうちでいました。夫のアンディーがせきをを始め、幾つか検査を受けましたが、あっという間に肺損傷に移行してしまいました。その後、手術と食道再建術を受け、「念のために」生検（訳注——患部の一部を切り取って調べる検査）も受けました。夫が手術を受けたのは、わたしたちが新居に引っ越す1週間前のことでした。

クリスマスの数週間前、近所に住むジャーネーと話す機会がありました。ジャーネーは、クリスマスの準備はできたかと尋ねました。わたしは何とか、これ以上の準備はできそうもないと答えました。いつもはクリスマスの直前に祖母と一緒にクリスマスクッキーを作ること、そして娘たちのためにエプロンを作ってあげたかったけれど、多分できないだろうと言ひ添えました。

それから1週間後、わたしはクリスマスツリーのそばの、座り心地のよい布張りの椅子に座ってくつろいでいました。娘たちはもう眠りに就き、アンディーは書斎で仕事をしていました。すると、玄関のベルが鳴りました。ドアを開ける

と、ジャーネーが3つの箱を抱えて玄関先の階段に立っていました。背後には雪がはらはらと舞っています。

わたしは「お入りになって」と招きながら、彼女にはわたしが驚いているのが分かるに違いないと思いました。

「結構よ。すぐに戻らないといけないので」と彼女が言いました。「これをお嬢さんたちにあげて。」

そう言って、ジャーネーは箱を手渡しました。

「エプロンよ。大したものじゃないけど、今晚仕上げられたから。」

わたしは驚き、謙遜な気持ちで、ありがとささやきました。わたしたちは抱き合い、わたしは家路に就く彼女の姿を見送りました。

椅子に戻ると、わたしは箱の一つに掛けられた白いサテンのリボンを丁寧にほどきました。箱を開けると、クリスマス柄の生地、手作りのエプロンが入っていました。親指と人差し指で縫い目をなでながら、ジャーネーのことを思いました。彼女には1歳になったばかりの

双子を含め、小さい子が4人いました。ピアノ教室をしながら、ワードでは忙しい重要な召しを果たしていました。

いつエプロンを作る時間があつたのだろうと考え始めたとき、すぐに答えが分かりました。時間があつたのではないのです。彼女は時間を作つたのです。

ジャーネーを通して授けられた天父の愛を感じ、わたしは涙をこぼしました。「〔御父の〕愛の腕の中に」（教義と聖約6:20）抱かれているような、温かさと慰めが感じられました。

エプロンを贈られてから何年もたちました。娘たちの成長とともに、その時のエプロンはもうだいたい前に小さくて着られなくなってしまいました。しかし、そのエプロンは今も、食品庫のフックのもと新しいエプロンの下につるされています。ジャーネーの贈り物を目にするたびに、わたしはあの夜に感じた慰めと愛を思い出します。彼女の贈り物はわたしがどのような人間になりたいのかを思い起こさせてくれます。それは、啓示を受けるふさわしさを持ち、進んで奉仕をするイエス・キリストの弟子です。■

キャンディス・A・グローバー  
（アメリカ合衆国、アイダホ州）

## わたしは独りではありませんでした

わたしは急ごしらえの<sup>ざんごう</sup>塹壕の中に座り、砂の向こうの北方、イラクの方角を見渡していました。砂漠の盾作戦（訳注——2006年、イラクによるクウェート侵攻に対抗して取られたアメリカの軍事作戦）中の12月24日のことです。わたしは真夜中からの警備の割り当てを受け、任務に就いていました。

大隊でただ一人の末日聖徒だったわたしは、祝日は特に寂しい思いをしたものです。8月からサウジアラビアの砂漠地帯に駐留し、寒い、星がまたたくクリスマスの夜がもうやって来たのです。野営地全体が眠りに就いていました。わたしはこれから数時間、独りで青みがかった灰色の砂丘に囲まれて思いにふけることができます。

アメリカ合衆国のジョージア州に残してきた妻と息子のことを思い、クリスマスをいつものツリーやプレゼント、そして本物のクリスマスディナーで祝えないことを本当に残念に思いました。それから、クリスマスの物語について深く考え始めました。

キリストがお生まれになった夜について思い巡らしたのです。その夜はどれほど暗かったのだろう。月が出ていて辺りを照らしていたのだろうか。それとも星明かりだけだったのか。主が降誕された時代には電灯はなかったわけですから、わたしが目にしていたその夜に近いものだったに違いありません。降誕を祝う祝宴もなかったはずです。ただの暗い、静かな夜だったことでしょう。

そのとき突然、すばらしい<sup>ざんごう</sup>考えが浮

かびました。聖書には、その後、東の方から夜空の星に導かれて博士たちがやって来たとあります。暗い夜空を見つめていたわたしは、そこがベツレヘムの東に当たることに気づきました。また、バグダッドが当時、知識の拠点の一つだったことも。もしかしたら、博士たちは今自分がいる場所からさほど遠くない所からやって来たのではないだろうか。彼らを導いた星はどの星なのだろう。その星は今も空にあるのだろうか。自分にも見えるだろうか。

神の創造物に驚嘆しながら空を見上げてみると、わたしは内側から温かいものが湧き上がるのを感じました。同じ場所にいるかどうか、同じ空の星を見ているかどうか重要なのでは

ありません。重要なのは、ベツレヘムでお生まれになった王の王である幼子について博士たちと同じ知識を共有していることなのです。

あのクリスマスの日、わたしは独りではありませんでした。むしろ、博士たち、預言者たち、あるいは砂漠の塹壕にいるただの寂しい兵士など、主を求める全ての人々と結ばれていたのです。あの夜、救い主の降誕についてのわたしの証は<sup>あかし</sup>強められ、夜が明けても聖霊はわたしとともにおられました。

その年のクリスマスは悲しいものではなく、わたしにとって最も貴重なクリスマスになりました。■

ロバート・ホフマン  
（アメリカ合衆国、ワシントン州）



暗い夜空を  
見つめていた  
わたしは、  
そこがベツレヘムの  
東に当たることに  
気づきました。

わたしは、  
パーティーが終わるまでに  
瓶が募金でいっぱいになるよう  
祈っていました。

## 現代版やもめのレプタ

**借**り物の白いテーブルクロスとテーブルの真ん中に置かれた雪だるまの飾りが、多目的ホールを華やかに見せ、親類一同が集まるクリスマスパーティーの準備は最後の追い上げに入っていました。

ゲストを待つ間、わたしの視線は知らず知らずのうちに、一つのテーブルに置かれた空の瓶に注がれていました。瓶には「サブ・フォー・サンタ」（訳注——品物やお金を持ち寄り、経済的に困窮している家庭の子供にクリスマスプレゼントを贈る活動）と書いた紙が貼られていました。わたしは、パーティーが終わるまでに瓶が募金でいっぱいになるよう祈っていました。

パーティーの準備をしているとき、いとこの夫が1年半以上も失業していることが分かったのです。この家族のおもな収入源は、5つの新聞配達ルートでした。そのために、一家は毎朝3時半から配達を始めなければなりません。収入のほとんどは家のローンやその他の必需品の支払いに消え、クリスマスプレゼントのような余分なものを買う余裕はほとんどありませんでした。

一番早く到着した人々の中に、いとこ

の家族がいました。彼らがテーブルに向かって進み、サブ・フォー・サンタの瓶の横を通るのが見えました。そのとき、いとこの夫が立ち止まり、瓶に貼られた紙の文字を読みました。それから何のためらいもなく、使い古した財布を取り出すと1ドル札を2枚抜き取り、瓶の中に放り入れたのです。「助けが必要な」家族が誰なのか気づきもせずに。

感動で込み上げるものを感じながら、わたしはすぐに新約聖書にあるやもめと二つのレプタの話思い出しました。多くの金持ちが誇らしげにたくさんのお金をさい銭箱に投げ入れる中、「ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れ[ました]」（マルコ12:41-42参照）。

そこで、救い主は弟子たちに向かって言われました。

「あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。」

みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである。」（マルコ12:43-44）

イエス・キリストは、やもめが「乏し

い中から」「その生活費全部」を投げ入れたと言っておられます。彼女はレプタ一つだけを献金することもできたはずですが、おそらく、それで十分献金の義務は果たせたことでしょう。しかし、彼女の忠実な心と進んで全てをささげようとする姿勢が神の御子の目に留まったのです。

いとこの夫が、「もしあれば与えるであろう」（モーサヤ4:24）と考えて瓶を素通りしたとしても、誰も彼を非難する人はいなかったでしょう。彼が示した慈愛と同胞愛のすばらしい模範は、わたしだけでなく、それを見ていた一族の他の人々にも感動を与えました。わたしは彼の家族は大丈夫だと気づきました。なぜなら、「慈愛はキリストの純粋な愛であって、……終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸い[だ]」からです（モロナイ7:47）。

その晩、わたしたちは彼の家族に何かを贈りたいと思っていましたし、それは後で実現しました。しかし彼は、自分が苦しんでいる最中に人に与えることで、本当に大切なことに関してはまだ十分に豊かであることを身をもって示してくれたのです。■

ステファニー・H・オルセン  
（アメリカ合衆国、ユタ州）

## 困っているのがどうして分かったのでしょうか

20年近く前、わたしは日本で伝道するよう召しを受けました。大きな期待と少しの不安を胸に、1月の出発に向けて準備を始めました。その頃、両親とも失業していました。

伝道地に到着後の資金はあったものの、家族の財政はひっ迫していました。伝道用の服、スーツケースなど、必需品をそろえるために必要なお金を工面する当てがありませんでした。パートタイムで仕事をしていましたが、それでは足りません。特に心配だったのが、パスポートの申請費用の捻出でした。予定どおり日本に出発するには、急いで申請しなければなりません。

ある日の午後、  
切羽詰まった  
わたしは自分の  
部屋に行き、

天の御父に願い求めました。ぜひ日本で伝道したいと思っていることと、伝道という自分の夢がもうすぐ実現することへの感謝の気持ちを伝えました。込み上げる涙をこらえながら、パスポートの申請に必要な75ドルがどうしても捻出できないことを話しました。祈りを終えて立ち上がったとき、万事うまくいくという確信がありました。その方法は分かりませんでしたが、穏やかな平安が心にあり、主が助けてくださるという保証が与えられたのです。

その日、しばらくしてから郵便受けを開けると、クリスマスカードが入っていました。差出人は、自分の身元が分からないように細心の注意を払っていました。封筒に切手はありませんでした。自分で郵便受けに入れに来たのです。

カードの内側には次のようなメッセージがタイプされていました。「おめ

でとう。あなたはこのたび、クリスチャンの親切な行いの受益者として無作為に選ばれました。メリークリスマス、ハンナ。伝道の成功を祈っています。」

カードには100ドルが同封されていました。わたしは玄関に立ったまま泣きました。善意の主は誰なのでしょう。その人はどうして、わたしが困っているのが分かったのでしょうか。

それから何年もたった今も、その日お金を届けてくれた人が誰だったのか分かりません。それ以来、その人、あるいはその人たちについて何度も考えてきました。彼らは、かつて十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老(1917-2008年)が言ったことを身をもって示したのだとわたしは思います。長老はこう言っています。「キリストのような友から受ける哀れみは、生活に大きな影響と変化をもたらします。……この教会では、助けを求める祈りがしばしば、思いやりのある兄弟姉妹の日々の簡単な奉仕を通じて、主からこたえられます。わたしは誠実な友の親切な行為の中に、主御自身の憐れみを見てきました。」<sup>1</sup>

あの時の親切な行いはわたしを変えました。おかげでわたしは予定どおり伝道に出ることができ、自分も人々の祈りの答えとなれる方法を探すようになったのです。■

ハンナ・アイセリン(アメリカ合衆国、アリゾナ州)

注

1. ジョセフ・B・ワースリン「価値ある交わり」『聖徒の道』1998年1月号、37

郵便受けを開けると、クリスマスカードが入っていました。封筒に切手はありませんでした。自分で郵便受けに入れに来たのです。



# 伝道からの 早期帰還

ブリタニー・ロマネロ・カスコ

**伝**道の召しを受け取った瞬間は、人生で最も重大な、栄えあるときでした。18歳で福音についての証<sup>あかし</sup>を得て以来、わたしは伝道について幾度となく考えていました。台湾・台中伝道部で奉仕する召しを受けたときに、それが正しいことだと確信し、伝道に出られることに胸を躍らせました。

毎日聖典を読み、伝道と神殿の備えのクラスに出席しましたし、自力で中国語を学ぼうともしました。一人っ子であるわたしが伝道に出ることは、自分だけでなく、両親や天の御父にも名誉をもたらすことが分かっていました。宣教師訓練センター（MTC）に入所した日、わたしはその後18か月間全て、うまくいくのだと思っていました。バプテスマを見ることから、何度も話聞いていた台湾料理を食べることに至るまで、何もかもが楽しみでなりませんでした。MTCに入所した当時、自分の伝道が預期し

ていたものとは大きく異なったものとなるなどとは知る由もありませんでした。

## 病気になる

伝道に出て約4か月後、わたしは痛みを感じるようになりました。自転車に乗っているときや朝の運動のときなど、体を動かす活動の最中だけでなく、寝ているときや個人学習の時間にも痛みを感じました。急激に体重が減り、水を飲むだけでも気分が悪くなりました。医師の検査では原因を突き止めることができませんでした。寄生虫もウィルスもありませんでした。伝道部長も同僚もわたしも皆、健康状態が悪化することに戸惑いを感じるばかりでした。

その後1か月、自分でも驚いたことに、わたしは信仰を保っていました。いら立ちを感じてはいたものの、さらに熱心に働き、もっと速く自転車をこぎ、出会う全ての人に片言の中国語で話しかけるならば、神は奇跡を起こ

宣教師訓練センターに入所した当時、自分の伝道が預期していたものとは大きく異なったものになるなどとは知る由もありませんでした。

してわたしを癒やしてくださると確信していました。キリストが病人を癒やし、死人をよみがえらされた話を信じていたので、弱いながらも一生懸命に伝道しているわたしにも同じようにしてくださいと心から信じていました。ところがある日曜日、求道者に会うために教会の集会所まで同僚と自転車をこいでいたときに、全身に耐え難い



痛みとけいれんが走ったのです。集会所に着くと、長老たちに祝福を頼みました。そのおかげで幾分痛みは和らぎました。日がたつごとに、神権の祝福をさらに頻繁に受けるようになり、癒やしを求めて祈る回数も増えていきました。

あれは、伝道中で最悪の日でした。その朝、燃えるような台湾の暑さの中で目覚めたわたしは、自分が体を動かしてベッドから下りることさえできないことに気づいたのです。そのとき、もうこれ以上伝道は続けられないことを悟りました。伝道部会長が来てくれて、二人で話し合いました。あらゆる可能性について話し、何度も祈り、たくさんの涙を流した後、家に帰って健康を取り戻すことを第一に考える必要があるという御霊の<sup>みたま</sup>確認を受けました。

#### 早期帰還

風船や「おかえりなさい」の横断幕に迎えられることなく帰還したわたしは、車椅子に乗せられて飛行機を降りると、心配でたまらないといった様子の両親に引き渡され、両親はすぐにわたしを病院の緊急処置室に連れて行きました。何か月にもわたる検査が始まりましたが、医師は体調不良の原因を突き止めることができませんでした。それに加えて、善意からなのですが、周りの人たちがいろいろなことを言ってきたのです。「いつ伝道地に戻るの?」「ずっと家にいるの?」「結婚した方がいいのかもしれないわね。」「そもそも伝道に出るべきじゃなかったのかもしれないよ。」

わたしはばつが悪く、どう答えてよいか分かりませんでした。自分は神の愛を受けるにふさわしいのだろうか。あんなに一生懸命伝道したのに、なぜこんなことになってしまったのだろうか。わたしは良い宣教師ではなかったのだろうか。神はわたしの祈りを聞いておられたのだろうか。同年代の友達にわたしの「傷物の」伝道を認めてくれるだろうか。

その後半年間、わたしは自分の証について悩み、そのことで罪悪感を感じました。自分は恵みから落ちたの

**肉体は完全に癒やされませんが、心は以前にもまして元気で、主の大義のために奉仕する用意ができています。**

ではないかと悩み、天の御父は自分を本当に愛してくださっているのか、疑問に思いました。気分は徐々に良くなっていましたが、伝道前のような気持ちではありませんでした。そして、自分の人生を先に進めようという気持ちにはなっていませんでした。

ある晩、親友と話をしていたときの事です。彼も病気のために伝道を早期帰還した痛みと悲しみを経験し、伝道地に戻る準備をしているところでした。その晩、半年ぶりに、本当の意味で心が安らぐのを感じました。御霊の声がわたしにこうささやきました。「伝道地に戻りなさい。」わたしはようやく進むべき方向が分かってほっとしました。翌日、ビショップに会いに行きました。そして、熱意を込めて宣教師管理部に手紙を書き、伝道地に戻る事ができるかどうか尋ねたのです。申請は認可され、1か月後に再び名札を着けることができました。



しかしその半年後、同じ症状が再発したのです。何時間にも及ぶ検査と注射のために意識がもうろうとする中、病院のベッドに横たわっていたのを覚えています。なぜそんなことになるのか、信じられませんでした。今度こそ自分の伝道が終わったことを悟りました。落胆と後悔の涙が頬を伝いました。賢明な伝道部会長の次の言葉が聞こえました。「ロマネロ姉妹、あなたは2倍主を愛したのですよ。伝道地に戻ってきたのですから。」この言葉に、わたしは大いに慰められました。このたびは家に向かう飛行機に乗るときに、答えがなくとも忠実であり続けることを天の御父に約束しました。

### キリストの贖い<sup>あがな</sup>に癒やしを見いだす

帰還してから2年と少したちました。今でも症状があり、伝道前ほどの体力や力はありません。医師は依然としてこの症状の原因を突き止めることができません。所定の期間伝道できずに帰還したことに、わたしは良い気持ちを抱くことができませんでした。それでも、大切な改宗者一人一人を今でも愛しています。自分の伝道が認められたと感じ、他の宣教師の18か月ないしは24か月間の伝道に価値があるのと同じように、わたしの早期帰還の伝道にも価値があるのだということが分かるまでには、時間がかかりました。

主は、予期せず早期帰還してしまったことを気に病む人たちと話す機会を何度もわたしに与えてくださいま

した。わたしが彼らに会って証を述べ、健康上の問題による早期帰還はひた隠しに隠すべき過去の傷ではなく、話すべき経験だということを知ってもらえるよう助けてくれたのは、天の御父の導きだということを知っています。

一度目に家に帰ったときに、自分の信仰から目を背けるとどのような気持ちになるかを経験しましたが、二度目に家に帰ったときには、忠実であるとはどのようなことかを、経験から悟りました。わたしは基本に従いました。つまり、聖典を研究し、インスティテュートに参加し、教会に出席し、召しを果たしたのです。何度も祈り、なぜこのようなことになったのかを尋ねました。自分を責めるのをやめ、天の御父を責めるのをやめました。帰還してからの生活や、今住んでいる町にいる中国人の兄弟姉妹との会話を振り返ると、この経験には永遠の目的があるのだという確固とした思いが新たにになります。

わたしはモーサヤ第5章15節の言葉が好きです。「したがって、あなたがたは確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるように、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるようにしてほしい。この永遠の救いと永遠の命は、天地の万物を創造された、あらゆるものに勝る神の知恵と力、公正、憐れみ<sup>あわ</sup>によって与えられるものである。」

主に献身的に仕える生活を続ける

ならば、永遠に祝福を受けられると信じています。このようにしてわたしは、イエス・キリストの贖いを通して癒やされたことを知っています。肉体は完全に癒やされませんでした。心は以前にもまして元気で、主の大義のために奉仕する用意ができています。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

### 健康上の問題で 早期帰還した場合の選択肢

肉体的、情動的、あるいは精神的な健康の問題を抱えている場合は、ビショップまたは支部会長に話して、若者向けの教会奉仕宣教師プログラムについて詳しい情報を教えてもらいましょう。

「奉」仕宣教師として伝道することは大きな祝福です。適切な医療処置を受けつつ家庭で生活しながら、主のために奉仕することにより成長し、成熟することができます。」

ドナルド・B・ドーティー  
宣教師管理部ヘルスサービス課長  
“Missionary Health Preparation,”  
Ensign, 2007年3月号, 67

# ドイツで証人として生きる

ユスティナ・マキャンドルス

ハノーファーの都市部から電車で30分ほどのところ、一面の春の花で埋め尽くされた平原にさりげなく見え隠れするいかにもドイツらしい小さな町、それがシュタットハーゲンです。この町で、19歳のエステル・グラフが生まれ育ちました。ここでは、何もかも徒歩か自転車の圏内にあります。通りを行けば、パン屋もアイスクリームショップもどこにでもありますし、平日は町の広場に行けば、マーケットでにぎわっています。

シュタットハーゲンはまた、成長を続ける末日聖徒の群れのふるさとでもあります。

町自体は小さいのですが、シュタットハーゲンには、ドイツとしてはあり得ないほどの大きなワードがあります。それというのも、ドイツでは人口1万人のうち5人に満たないほどの会員しかいないからです。しかし、エステルにとって、イエス・キリストの福音の原則に従って生活する方法やその原則を活用して人に仕えたり、祝福をもたらしたりする方法を学ぶうえで、ここ以上に良い場所はありません。

エステルは14歳のとき、祝福師の祝福を受けましたが、その祝福から大

切なことが実現しました。「自分が天のお父様にとって実際どれほど大切な存在なのか、はっきりと分かるようになってきました。」彼女はそう言います。「わたしたちが一人残らず天のお父様にとってどれほど大切な存在か、分かりました。」

彼女はその知識を胸に、他の人との関係作りに応用しようとしています。

例えば、彼女はステーキのヤングシングルアダルトの評議会に召されており、彼女の責任は、全ての人が自分ばかりがえのない存在だと感じてもらうことです。「わたしは人を批判するのではなく、人を理解するように努めています。」

彼女はそのことを、学校にいるときも心がけています。「自分の宗教について尋ねられることがよくあります。でも、どういう形であれ、それは悪いことじゃないと思うんです。いずれにせよ、わたしはそのことでいつも幸せな気持ちになります。その理由は実に単純で、尋ねられれば、いつも、自分の助けになりますし、自分の生き方にとって得ることが多いからです。福音のおかげで、いろいろなことが分かりますから。

わたしたちの信仰をばかにする人や、理解できない人はいつも存在します。

**信仰を固く守っていると、それを分かち合うのも簡単になります。**

でも、自分が信じているとおりに生きていけば、実際には問題はないんです。」

エステルは神を愛し、神を信頼しています。それは、福音に従って生活し、それを分かち合ううえで最も大きな助けになっています。

彼女はこう言っています。「心配する前に、まず神を信頼することです。自分でそれを実践し、信仰を持っていれば、他はどんなことでも簡単になります。神を信頼していれば、わたしたちは自分の生活でも、将来に対して信仰と自信をもって前進して行けるんです。それを実践していけば、わたしたちは神の証人として生活ができるようになります。」■

筆者はドイツ在住です。



## エステルについて

**ドイツ人はどんな食べ物が好きですか。**

ドイツ人はポテトやヌードルのキャセロールが好きです。わたしの一番好きな食べ物は、野菜とソースのかかったポテトです。わたしは特に豆と芽キャベツが好きです。

**どんなことをするのが好きですか。**

音楽を聞いたり、歌ったり、ピアノやギターを弾いたりします。また、パンを焼くのも好きです。おいしいケーキを焼くにはどうしたらいいのか、目下勉強中です。

**ドイツではどのようなデートをしますか。**

わたしたちはデートはしません。男の子が「ぼくとデートしてくれませんか」なんて言ったら、ちょっと変です。この国では、グループで知り合い、その後、誰かを好きになったら、電話や携帯電話で話をします。それから時々会います。デートをするような関係になるかどうかはそのあとです。

## ドイツの教会

- 末日聖徒 39,401 人
- ステーキ 15      • 伝道部 3
- ワード 89        • 神殿 2
- 支部 85

## 数字でみると

- 人口 80,995,685 人  
(2014年7月推計)
- 美術館・博物館 6,200
- 動物園 400 以上  
(1国中の数としては世界最高)

## ドイツについて

首都——ベルリン

言語——ドイツ語

写真/エステル グラフの厚意により提供





大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長

## クリスマスの 本当の意味を知る ために

クリスマス<sup>ク</sup>の真の意味を考えながらクリスマスの準備をするとき、キリストを身近に感じ、キリストのメッセージを理解するために備えることができます。この準備の時期に、研究し、深く考え、実行したらよいことを3つ提案したいと思います。

最初に、救い主の誕生を喜びましょう。神の御子、創造主、メシヤの誕生を祝います。王の王が地上に生まれおこされお生まれになり、完全な生涯を送られたことは何と喜ばしいことでしょう。イエスがお生まれになったとき、天は大きな喜びに包まれました(ルカ：2：8-14 参照)。

第2に、今のわたしたちの生活に主がどのような影響を与えておられるかよく考えましょう。クリスマスは、神の御子を覚え、御子の名を受ける決心を新たにする時です。生活を見直し、考えや気持ち、行動を見つめる時です。この時期を思い出と感謝、そして救いの時にしましょう。イエス・キリストの贖いと、贖いがわたしたち一人一人にとってどのような意味があるかをじっくり考える時間にしましょう。特に、気持ちを新たにし、神の言葉によって生きること、そして、神の戒めを守ることを改めて決心する時間にしましょう。こうすることで、イルミネーションや贈り物、パーティーより、はるかに心のもった賛美を主に送ることができます。

第3に、確固として主の再臨を待ち望みます。普通クリスマスは主の誕生を振り返り、祝う時期ですが、同時に将来に目を向ける時なのではないかと思うのです。将来に目を向けましょう。主が再臨される祝福に満ちた日に備えましょう。主の誕生を待ち望んだ、いにしえの人々のように賢くありましょう。

この時期に、そしていつでも、救い主の誕生の物語の純粹さを理解できますように。また、救い主の生涯と教え、そしてわたしたちを救うために払われた犠牲への感謝を心から感じることができるよう祈っています。こうした感謝の心が主に従う決心を新たにしますように。さらに、家族、教会、同胞と、もっと親しくなることができますように。そして、復活されたキリストがわたしたちの主、王、祝福された救い主として再びこの地上を歩かれる、その祝福の日を確固として待ち望むことができますように。■

2010年大管長会クリスマスディボーションから



### どのように 実践しましたか

何年も前のクリスマスに、祖母が子供と孫の全員に、自分に代わって人に奉仕してほしいと言いました。妹たちは赤ちゃんの帽子を編み、動物保護区で奉仕しました。また弟は夫を亡くした女性のためにクリスマスイルミネーションの飾り付けをしました。わたしは家族の名前を見つけて神殿で儀式を行いました。わたしたち全員が祖母にそれぞれの経験を手紙に書きました。そして、クリスマスの朝、その手紙を読む祖母の目には涙が光っていました。祖母の模範に感謝しました。そして、「愛をもって互に仕え」たことで(ガラテヤ5：13)、生きている家族に対し、また亡くなった家族に対して愛が一層深まり、親近感が増したことに気づきました。

アマンダ・S (アメリカ合衆国ユタ州)



## リサイクルショップで見つけた、 人生を変える贈り物

キアヌ・ウィリアムズ

あ  
る年、クリスマス用のお金  
があまりなかったわたしは、  
義理の父のエードリアン  
(妹とわたしは「ウィーギー」と呼んで  
います)のために贈り物を買えるよう  
祈りました。贈り物に使えるお金は、  
妹と二人合わせて2ドルしかありませ  
んでした。

母が、クリスマスの贈り物を買いに  
近所のリサイクルショップに行くと言  
ったので、わたしは部屋に駆け込ん  
で、助けを求めて祈りました。「2ド  
ルでプレゼントが買えるように、ど  
うか助けてください。」

店で妹のエレイナと本を見て回って  
いると、新品同様の聖典の合本を見  
つけ、二人で大喜びしました。わたし  
は合本をしっかりと抱えながら通路を  
通って母に駆け寄りました。わたした  
ちは飛び跳ねながら、口をそろえて  
「ウィーギーにあげるプレゼントを見  
つけたよ」と言いました。レジの  
ところで母が「おいらかしら」と尋  
ねると、店員の女性は「2ドルです」  
と答えました。わたしの祈りがこた  
えられたのです。

当時、義理の父は教会員ではあり  
ませんでした。モルモンが好きで  
はなく、モルモン書を信じておら  
ず、教会員が若い男性や若い女性  
の活動のためにわたしたちを迎え  
に来ることも快く思っていました。  
長老たちを追い払ったこともあります。  
でも、ワードの会員

や宣教師は彼を見放しませんでした。

クリスマスの当日、わたしたちは  
義理の父のプレゼントを最後に渡し  
ました。エレイナとわたしは、「これ  
は何よりもすばらしい最高のプレ  
ゼントだよ。お父さんをきっと幸  
せにしてくれるよ」と言いました。  
ウィーギーは何度か中身を当て  
てみようとしたのですが、わた  
したちはその答えに笑いました。  
わたしたちはこう言いました。  
「すばらしいプレゼントだよ。き  
っとお父さんの人生が変わるよ。  
ほくたちの人生も変わったよ。」

母は、わたしたちのプレゼントに  
義理の父が怒るのではないかと心  
配していましたが、エレイナと  
わたしはこうすべきだと確信して  
いました。

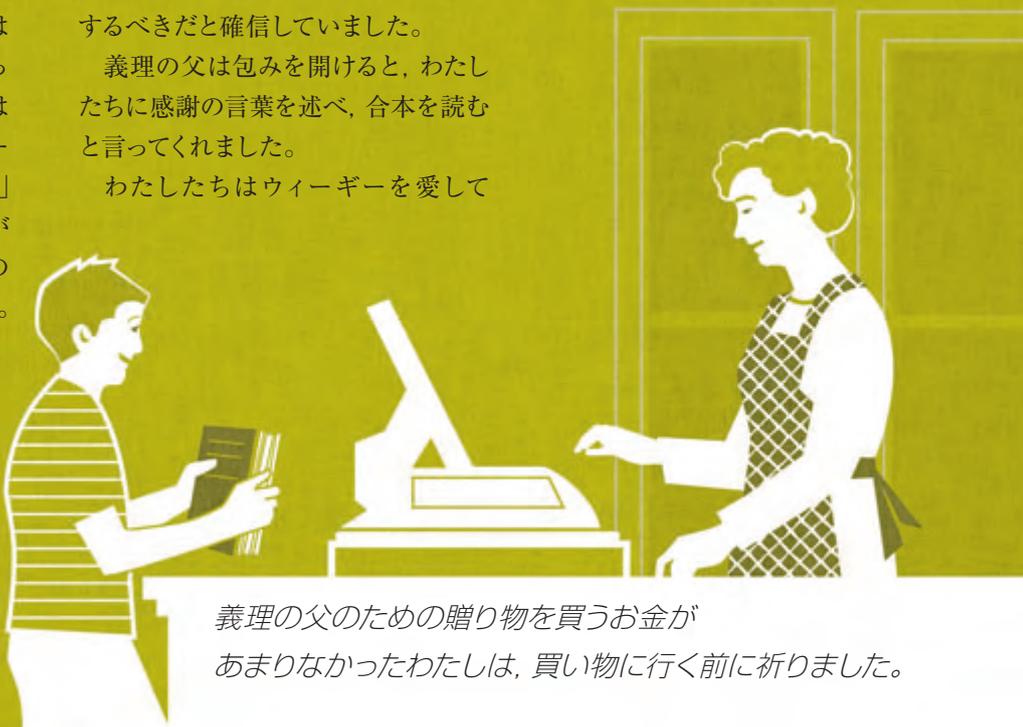
義理の父は包みを開けると、わた  
したちに感謝の言葉を述べ、合本  
を読むと言ってくれました。

わたしたちはウィーギーを愛して

いるので、イエス・キリストと主の贖  
いの賜物<sup>あがな</sup>についてウィーギーに知  
ってもらいたかったのです。わた  
したちと同じようにウィーギーに  
も信じ、祈り、悔い改め、生活  
の中に福音を取り入れてほしい  
と思っていました。

義理の父はモルモン書を読み、  
それについて祈りました。そし  
て、長老たちやワードの会員の  
助けを得てバプテスマを受け、  
今では教会員です。わたした  
ちは神殿で結び固めを受け、  
大きな喜びを感じました。ま  
た、家族で永遠に一緒にいら  
れることを確信しています。■

筆者はアメリカ合衆国アリゾナ州在住です。



義理の父のための贈り物を買うお金が  
あまりなかったわたしは、買い物に行く前に祈りました。



日曜日のレッスン

.....  
今月のテーマ——

末日に  
神の王国を築く

# 新入り

新しいワードで活発な祭司はわたしだけでした。  
他の祭司が教会に来るようにするにはどうしたらいいでしょうか。

教会機関誌  
マシュー・フリットン

18 歳になって数か月たった頃、家族は引っ越しをし、わたしは新しいワードで、難しい課題に直面しました。引っ越しをして2週間たたずに、祭司のほとんど全員が長老になり、わたしも召されて、祭司定員会の第一補佐となりました。

この責任に召されたとき、名簿にはたくさんの祭司がいるけれども、そのほとんどが教会に来ていないと、ビショップから説明を受けました。その出席を促すために、なすべきことがたくさんありました。

「とにかく来るよう誘うことだね。」  
ビショップはそう言いました。

教会に来ていた祭司が他にもう一人だけいました。名前はライアンとあって、月に2、3回ほど来ていました。わたしは教会に来ていない定員会の会員を訪問し、活動に誘うことにしました。教会に誘ったら怒るのではないかと緊張しました。教会に来ないのは、教会が好きでないからだと思いました。しかし、間もなく伝道に出る予定だったので、誘う努力をすることは、その良い訓練になるとも思い、歯を食いしばりながら他の祭司

たちに電話をしたり、家に寄ってみたいしました。ファイヤサイド、活動、教会に来ないかと声をかけました。

驚いたことに、何人かから反応があり、教会に来てくれたのです。やがて、4人の祭司が定期的に教会に来るようになりました。彼らは教会が好きでないわけではありませんでした。誰かが誘ってくれるのを待っていただけなのです。わたしがそうであったように、彼らも教会に出席するという新しい状況に緊張していたのです。

うまくいった活動もあれば、そうでない活動もありました。バレーボールには皆来てくれましたが、他の活動では、参加してもらうのは難しいことでした。

特にその年のユースカンファレンスでは、その中の何人かが立って証する様子を見て、頑張ったか<sup>あかし</sup>いがあったと思いました。彼らの生活に変化をもたらすことができたように思いました。

わたしが目にした変化の一つは、ライアンが毎週教会に出席するようになり、彼と親友になったことです。

引っ越して来て6か月後に、ライアンとわたしは、二人ともメルキゼデ

ク神権を受けました。わたしは、伝道が終わってから大学に行くことにしていたので、働いて、伝道資金をためることができました。既に仕事に就いていたライアンも、大学に行かないことにしました。わたしたちは仕事が終わると、よく一緒に時間を過ごしました。

一度、ライアンが初めてモルモン書に挑戦しているとき、二人でほとんど一晩寝ずにアルマ書を全部読んだことがありました。くたくたになりましたが、霊的には元気づけられました。ライアンの生活が変わっていく様子を見るのもすばらしいことでした。彼はそれまでの習慣を捨ててより良い習慣



イラスト/グレッグ・ニューボールド

を身につけ、同じ標準を持つ人と一緒にいられるように、何人か友達も変えました。

数年前教会に行き始めてからわたしはずっと伝道に出るのを心待ちにしていました。ライアンは伝道に出るかどうか迷っていました。彼と一緒にいるとき、わたしの伝道や奉仕する意気込みについて話しました。彼を励まし、福音に関する質問に答えるうちに、宣教師として奉仕する自分の力に自信がついていました。ライアンは伝道に出る年齢に達していましたが、なかなか決心できませんでした。

「当時、わたしは教会に対して良い気持ちを感じていましたが、十分に証が強いかどうか自信がありませんでした。」彼はそう語ります。「伝道に

は出なかったのですが、家族と離れるのが本当につらかったんです。」

伝道の申請書類に記入できる日がとうとうやって来ました。ライアンにそれを話すと、彼も伝道に出る決心をしたと言ったので、驚きました。わたしたちの伝道の召しは、同じ日の夜に届きました。ライアンがカナダへの伝道に出てから1か月後、わたしのフランスでの伝道が始まりました。

2年後に伝道から帰ったとき、わたしが教会に来るよう働きかけた祭司たち全員のことを調べました。悲しい

ことに、そのうちの何人かは、わたしが伝道に出て間もなくして、教会に行くのをやめていました。しかし、ライアンとの再会はうれしいことでした。ライアンは宣教師としての務めを立派に果たしていました。アルマとモーサヤの息子たちの場合と同様、彼がなおも主にあってわたしの兄弟であったので、喜びはひとしおでした（アルマ17：2参照）。■

**彼らは教会が  
好きでないわけでは  
ありませんでした。  
誰かが誘ってくれるのを  
待っていただけなのです。**



# ジョセフを知っていた人たち

□ 復の預言者ジョセフ・スミスはどのような人だったのでしょ  
うか。ジョセフに会った人たち、またジョセフをよく知っていた人たちの記録を読むと、彼についてよく知ることができます。

## ジョセフに会ったモルモンでない人たち

モルモンでない人たちでも、ジョセフに会って感銘を受けた人が多くいました。例えば、ハーバード大学の卒業生で、その後ボストン市長となったジョサイア・クインシーはノーブーに住むジョセフ・スミスを訪れています。彼はジョセフについて、「話題となる卓越した人物」、生まれながらの指導者であり、「その容貌は威厳に満ち……思わず従いたくなる」と語っています。また、「アメリカ国民の運命に大きな影響」を与えた人物として将来の教科書に載ることもあるであろうと述べています。<sup>1</sup>

## 改宗後間もなくジョセフに会った人物

ジョセフに初めて会った改宗者も称賛しています。イギリスからノーブーに到着して5日後、ウィリアム・クレートンは故郷へ次のような便りを送りました。「昨晚、わたしたちの多くがジョセフ兄弟とともに時間を過ごしました。彼が王国のことを話すのを聞いたときには、喜びでいっぱいになりました。優しく、気さくな人です。彼がとても好きです。皆もきっと同じように好きになるでしょう。」<sup>2</sup>

メアリー・アリス・キャンノン・ランバートは、ノーブーに着いたとき14歳でしたが、こう述べています。「[船が]……着いたとき、数名の指導者の兄弟たちが、聖徒の一行を出迎えてくれました。その中に預言者ジョセフ・スミスがいたのです。わたしは一目で彼だと分かり、その瞬間、ジョセフが神の預言者であるという証あかしを受けました。」<sup>3</sup>

『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』の第43章と第47章には、ジョセフ・スミスについてさらに詳しく記されています。そこに書かれている言葉を読めば、預言者ジョセフを知ることができます。

### ジョセフをよく知っていた人たち

教会初期の時代に会員となった、ジョン・M・バーンハイゼルは医師でした。スミス夫妻の家に数か月寄宿し、ジョセフ・スミスについて、活力がみなぎり、「強い精神力」と「人の本質についての深い知識」を兼ね備え、「穏やかに判断し」、「視野が広く」、「正義を愛する」人物だったと述べています。「優しく、進んで人に力を貸し、寛大で慈悲の心に富み、社交的で明るく、物事について冷静に思い巡らす思慮深い人物です。正直で、率直で、何ものをも恐れず、独立心旺盛で、うわべだけの振る舞いをするのではない点においては誰にも劣りません。」<sup>4</sup>

ジョセフ・スミスの書記の一人、ハワード・コーレイは、医師、弁護士、牧師など、「難しい質問」をしにやって来るあらゆる種類の人々に対応する預言者の能力に感銘を受けました。彼はこう書いています。ジョセフは「誰に対しても動じることなく冷静でした。……どんなときでも、たとえ相手が科学の知識にたけた人であっても、質問に答えるときのジョセフの落ち着いた態度、〔間を置かずに即座に〕答える様子は、見ていて心からうれしく思いました。」<sup>5</sup>

後にソルトレーク盆地に向かう手車隊の一隊を率いたダニエル・D・マッカーサーはこう語っています。「わたしの証は次のとおりです。ジョセフは生ける神のまことの預言者でした。その言葉を聞き、その行いを見るほどに、ジョセフが父なる神と御子イエス・キリストにお会いしたという確信が強まってきました。」<sup>6</sup>



### ジョセフを知っていた預言者

後に第3代大管長となったジョン・テラーは次のように語っています。「もし皆さんがジョセフに、アダムがどのような……人物であったか尋ねるならば、ジョセフは即座に答えてくれるでしょう。アダムの体格や容姿など、アダムについて何でも教えてくれるでしょう。ペテロとヤコブとヨハネがどのような人物であったかを尋ねたならば、答えてくれたでしょう。なぜでしょうか。ジョセフは彼らに会っていたからです。」<sup>7</sup>

預言者のおいでであり、第6代大管長となったジョセフ・F・スミスはこう書いています。ジョセフ・スミスは「この上なく高潔で、純粋な人でした。その現れとして、よくボール遊びや、兄弟たちとのレスリングなど、無邪気な遊びを楽しみました。……ジョセフの心は喜びと楽しみと愛にあふれ、偉大で善良な人に見られるその他のあらゆる高潔な属性にあふれていました。それと同時に素朴で汚れがなく、……神の恵みによって、全能者の目的を理解する力を受けていました。預言者ジョセフ・スミスとはそのような人物でした。」<sup>8</sup> ■

#### 注

1. ジョサイア・クインシー, "Joseph Smith at Nauvoo," *Figures of the Past from the Leaves of Old Journals*, 第3版 (1883年), 376 - 400; リチャード・L・ブッシュマン, "The Character of Joseph Smith," *BYU Studies*, 全42巻, 第2巻 (2003年), 29 - 30も参照
2. ブッシュマン, "The Character of Joseph Smith," 33
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』496
4. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』498 - 499
5. ブッシュマン, "The Character of Joseph Smith," 29
6. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』496
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』103
8. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』499





自分の一や断食献金を納めることで、どんな祝福が得られるのだろうか。

神殿結婚からどんな祝福が得られるのだろうか。

この召しで奉仕をすることで、自分はどのように人から認められるのだろうか。

教会に出席すると、何が得られるのだろうか。

正直でいるとどんなことで得られるのだろうか。

伝道がどんな助けになるのだろうか。

自分の納める自分の一や断食献金は、神の王国の建設をどう助けることになるのだろうか。

神殿結婚をすると、伴侶や子供たちのために仕えるどのような機会が与えられるのだろうか。

自分の召しは、人を強めるうえでどういう助けができるのだろうか。

自分が教会に出席することで、どうしたら主に対する献身を示すことができるだろうか。

自分が正直でいることで、人に祝福をもたらすことができるだろうか。

伝道中にどうしたら人々を助けることができるのだろうか。

あなたは

## 受ける人？ それとも 与える人？

人に仕えたり、戒めを守ったりする理由について、立ち止まって考えたことがありますか。今月は教会のレッスンで神の王国を築くことについて学びますから、考えてみる絶好のチャンスです。自分でこう質問してみましょう。自分の行動のきっかけになっているのは、何かが受けられるからでしょうか、

それとも与えることができるからでしょうか。

こう尋ねてみると、自分が内向き（自分自身のことを考えている）か、外向き（人のことを考えている）か、分かるようになります。

自分が今後受けるはずの祝福について考えるのはかまいません。でも、もし自分が外向きではなく、むしろ

内向きなのではと考えると、できるだけ見上げるようにしてください。トーマス・S・モンソン大管長は、こう教えています。「忘れないでください。この業は皆さんやわたし個人の業ではないのですから、上を向き、神の助けを求めてもよいのです。」（『最善を尽くして義務を果たす』『リアホナ』2005年11月号、58）■

# 使うか、 失うか

言い訳という雑草を抜き取り、才能を伸ばしましょう。  
あなたは、世の中をより良い場所に変えるために、  
重要な役割を果たすことができるのです。

「わたしに、マイアメイドの  
クラス会長としてふさわしい力が  
あるとは思えません。

もっと良い指導者になるには  
どうしたらよいでしょうか」

**召**しを受けたときにふさわしくないと感じるのは  
あなただけではありません。エリヤもエノク  
も、そしてジョセフ・スミスも、預言者としての  
召しを受けたときはまだ若く、皆自分がふさわ  
しいとは思いませんでした。しかしそれでも

主は、主の王国を発展させるために彼らをお使いになりました。  
主が昔、預言者を使って偉大な事柄を成し遂げられたように、あな  
たが祈り、主に頼るとき、主はあなたをお使いになれます。

クラスの人たちのためにあなたができる一番良いことは、友達に  
なることかもしれません。皆の名前を覚えてください。苦しんでい  
る人がいれば、その人のために毎日祈り、時には断食するのもよい  
でしょう。教会の外でどのような毎日を送っているかを尋ねてみて  
はどうでしょうか。顔を合わせたときは必ず笑顔で挨拶し、教会や  
学校では隣の席に座ってください。特別な愛と助けを必要として  
いる人がいないかどうか、注意しましょう。

そして、助けを求めることを恐れないうでください。天の御父は  
あなたを独りで放っておくようなことはなさいません。顧問がい  
ます。また、大人のアドバイザーも与えてくださっています。彼らは  
あなたの力になってくれますし、天のお父様も助けてくださいます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008年)は次のよう  
に言いました。「ひざまずいて主の祝福を願い求めてください。立ち  
上がって自分に求められていることを行ってください。その後は  
全てを主の御手に委ねてください。そうするとき、自分はとても  
貴重なことを成し遂げたのだということに気づくでしょう。」(「教会  
の女性たちへ」『リアホナ』2003年11月号, 114)

### 友達になる

クラス会長として、わたしもふさわしく  
ないと感じていました。でも大切なこ  
とは、若い女性の皆が愛され受け入  
れられていると感じるように努力す  
ることです。頼りがいのある友達にな  
ってください。そして、何か決定する  
ときは顧問の助言によく耳を傾けて  
ください。義にかなった模範を示し、  
若い女性の特質に従った生活をする  
ように努力しましょう。でも、完全  
になれるとは思わないでください。  
天の御父は、ただ努力することだけ  
を求めておられるのです。御父に  
頼るなら、天のお父様はあなたに  
必要な力と導きを与えてくださ  
います。

レベッカ・N, 16歳  
(アメリカ合衆国ニューハンプシャー州)



### 進んで奉仕する

わたしもマイアメイドの  
クラス会長で、同じよう  
に感じていました。  
今でも、面接を受ける  
ためにビショップの部屋に入ったとき  
の気持ちを思い出すことができます。  
召しを断ることもできました。でも  
わたしは、それがビショップから与え  
られた責任ではなく、神から与えられ  
た召しだと知っていました。進んで  
天の御父に自分を委ねて謙遜になる  
なら、御父は召しを果たせるように  
助けてくださいます。

ニコル・P, 16歳(フィリピン)

### 仕える相手愛する

より良い指導者になるためには、あな  
たが仕えている人たちを心から愛さな  
ければなりません。ですからどんな  
恨みも忘れ、赦すことが必要です。  
神と同じようにその人たちの価値が分  
かるよう祈ってください。神があな  
た

にも、またあなたのクラスメートにも同じように愛を注いでくださっていると感じられるように祈ってください。わたし自身の経験から、「成長するわたし」が召しを果たすために必要な能力と特質を伸ばす助けとなることを知っています。その助けを願い求めるなら、神は必要な力を与えてくださいます。

メアリー・B, 16歳  
(アメリカ合衆国ワシントン州)



### 今いる所から始める

身につけたいと思う能力を鍛えることで、より良い指導者になることができます。何か決定するときは、御霊がともにいてくださるように祈ってください。若い女性が必要としていることに気を配れるように祈ってください。良い指導者となるためにできることはいろいろありますが、常に「自分ができる」と信じるのが第一歩だと知りました。

サバンナ・P, 15歳  
(アメリカ合衆国テキサス州)

### 神殿に参入する

執事定員会の会長に召されたばかりのとき、わたしは霊性を高める方法がよく分かりませんでした。そこで、毎週、だいたい日曜日ですが、家族歴史を探求することにしました。そして必ず土曜日の午前中に神殿に行っています。自分で見つけた家族の男性の名前を持って、バプテスマと確認のためにできるだけ頻繁に行くことが目標です。毎週神殿に行くようになってから、以前より少し霊的になったと感じ、定員会を助けることができるようになりました。

ジョッシュ・B, 13歳 (アメリカ合衆国ユタ州)

### 靈感に従って行動する

主が召しを与えられたのは、あなたにできる業があるからです。ヤコブの手紙1章5節に書かれているように神に願い求めることが必要です。聖霊の力によって、何をすべきか明らかになります(2ニーファイ32:5参照)。聖霊の助けがあれば「すべてのことの真理を知る」ことができます(モロナイ10:5)。その後は、受けた靈感に従うことが必要です。わたしたちを導いてくださるのは主です。ですから、召しを尊んで大いなるものに行うことができると心から確信しています。

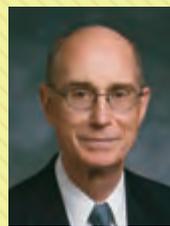
ルーシー・D, 17歳 (フランス)



### 心高める活動を計画する

定期的に会長会を開いて、若い女性の必要と興味を満たし、心高める活動を計画します。クラスを欠席した若い女性には、「あなたがいなくて寂しかった」と伝えましょう。わたしにとって力となった聖句の一つはモーサヤ第18章9節です。

カレン・P, 16歳 (メキシコ)



### 主があなたをお選びになりました

「あなたは神から召されています。主はあなたを御存じです。主は御自分の教会の各責任を誰に任せべきか御存じです。主があなたを選ばれました。」……あなたを今の召しに推薦するよう靈感を受けた人は、あなたが好きだとか、働く人が必要だとか、そういう理由で召したのではありません。祈り、あなたを召すべきだという答えを感じたから召したのです。……

あなたは救い主を代表するよう召されています。あなたの証は主の御声となり、あなたが誰かを支える手は主の御手となります。」

大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長  
「神からの召し」  
「リアホナ」2002年11月号, 76

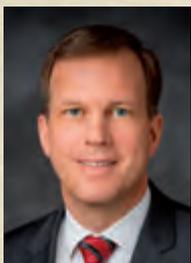
## 次回の質問

「いとこたちを教会に誘いたいのですが、彼らの親が怒らないか心配です。証をいとこたちに伝えるにはどうしたらいいですか。」

あなたの意見と、希望する場合は高画質の写真を、2016年1月15日必着で [liahona.lds.org](http://liahona.lds.org) からお送りください。電子メールの場合は [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) まで、または郵送で(3ページの住所を参照)お送りください。

電子メールまたは手紙には、次の情報と承認の意思を必ず明記してください。(1)氏名、(2)生年月日、(3)ワードまたは支部、(4)ステークまたは地方部、(5)意見と写真の掲載を許可するというあなたの同意文、18歳未満の場合は保護者の同意文も必要です(電子メール可)。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。



七十人  
ヨーク・  
クレビンガット長老

# 若い改宗者

として学んだこと

教会に入って間もない頃、  
わたしは同じワードの青少年が  
犠牲のすばらしい模範を示すのを見ました。  
それ以来、わたしは偉大な教訓を  
たくさん学んできました。

**わ**たしは17歳のときに教会に入りました。ドイツのわたしが住んでいた町にあった米軍基地のアメリカ人から教会を紹介されたのです。わたしが住んでいた地域にはドイツ語ワードがなかったため、わたしはアメリカ人と一緒に基地の教会に出席しました。集会は、いろいろな教派が使用する軍の礼拝堂で開かれていました。バプテスマを受けて間もない頃のある日曜日、集会の終了後に、ビショップが立ち上がって、こう言いました。「セミナーの生徒とその親御さんは、全員残っていただけますか。」

ビショップはわたしにも残るように言いました。

礼拝堂に残っているのが該当する家族とビショップとわたしだけになると、ビショップは説明を始めました。それによると、わたしは次年度のセミナーに彼らと一緒に出席する資格があるとのことでした。でもわたしは地元のドイツ人の学校に通っていました。授業は、基地の青少年が全員通うアメリカ人の学校より1時間以上早く始まります。わたしが坂道を急いで下って学校に間に合わせるためには、セミナーの時間を午前6時に変更しなければなりませんでした。それまでより1時間以上早くなるのです。

するとビショップは、この犠牲を払ってわたしが出席できるようにしてもいいかどうか決を採りたいと皆に言いました。すると、全ての親と生徒が直ちに手を挙げて、「いいですよ」と言ったのです。



ビショップは、  
わたしが出席できるようにするために、  
セミナーを1時間早くすることについて  
決を採りたいと皆に言いました。  
すると、全員が「いいですよ」と  
言ったのです。



それはわたしにとって、とても感動的な瞬間でした。この出来事はわたしに、犠牲についての教訓を与えてくれました。この若い生徒たちは、楽をしたいという個人的な思いを喜んで犠牲にしました。しかも、1日とか1週間ではなく、一つの学年が終わるまで、そうしなければセミナーに参加できない新しい改宗者のために犠牲を払ってくれたのです。

わたしは今でも、彼らの犠牲に感謝しています。(教義と聖約を学んだ)セミナーの1年間は、教会に入って間もない自分にとっていかに大切だったかが分かるからです。セミナーがなければ、わたしは日曜日以外教会に関わる事があまりなかったらと思います。デイリーセミナーは、伝道に出るためのすばらしい準備でした。自己鍛錬についてたくさん学びましたし、もちろん、福音と聖文の知識に関しては限らない祝福を頂きました。当時の教義と聖約のマスター聖句なら、全部わたしに聞いてください。今でも覚えています。この経験のおかげで、わたしは、天の御父に近づくことができるようになりましたし、町の中でただ一人のドイツ語圏の教会員というハンデも克服できるようになりました。

## 神と交わる

学校を卒業してから伝道に出るまでの間、わたしは兵役の義務を果たしました。軍にいる間に、わたしは常に祈るという習慣を身につけ、それが今日も習慣になっています。

明らかに、軍の環境はいつも非常に霊的というわけではありませんでした。ロッカーの中身、写真、雑談、仲間が夜に

見る映画などです。でも、わたしは伝道に出るつもりでした。強さを保ちたいと思いました。墮落したくはありませんでした。仲間からの圧力に負けたくなかったのです。そこでわたしは、常に心の中で祈るという習慣を身につけました。

建物から別の建物まで歩くときも、森の中で坂道を上り下りするときも、たこつぼ(訳注——個人用の小さな塹壕)の中で伏せているときも、軍事演習の最中も、どこにしようと天の御父とできる限りいつでも祈りで交わるようにしました。御父に近づいて強さを保つために、数分、時には数時間、天の御父と交わるように、つまり、話すようにしていたのです。たいていの場合は、ただ感謝を述べるだけでした。

これは、今でも習慣になっています。わたしはどこかに車で行くときやバスに乗っているとき、どこかを歩いているとき、心の中でいつも祈る、つまり、聖文で言われているように、「常に祈[る]」ことが自然にできるようになりました(例えば、2ニーファイ32:9参照)。これは若いうちに身につけるべき良い習慣です。

わたしたちは祈るよう言われていますが、これは、朝晩少しの間ひざまずいて天の御父のために祈るだけでよいという意味ではありません。祈りは、皆さんと御父との間の、誠実な、深い、継続的な交わりでなければなりません。この交わりは、ゆっくり期間をかけて皆さんをますます御父に近づけてくれます。この祈りの習慣を身につけると、世の中で受けるあらゆる誘惑に立ち向かうことができるようになります(3ニーファイ18:15, 18参照)。ですから、A地点からB地点に行くときや、時間が空いたときにはいつでも、音楽を聴いたり携帯メールを書いたりする時間を少し削って、もっと心の中で祈るようにしてみたらどうでしょうか。

## 常時イエス・キリストの贖罪を適用する

続けて祈り、福音を学ぶならば、「いつも罪の赦しを保てる」ようにするためにイエス・キリストの贖罪を毎日毎時間受けられることが分かるようになるでしょう(モーサヤ4:11-12参照)。皆さんは日曜日だけではなく、重大な罪を告白するためにビショップのもとへ行くときだけでなく、文字どおりいつでも天の御父の前に行ってこの力にあずかり、清めていただくことができます。

主は皆さんが浮き沈みを繰り返すのではなく、毎日イエ

ス・キリストの贖罪に頼って、いつでも清くふさわしくなり、御霊みたまを感じ、導きを得ることができるようになってほしいと思っておられます。日々贖罪に頼ることによって、皆さんは、過去にどんな過ちを犯してしようとも、この祝福にあずかることができます。悔い改めとはビショップのもとへ行って重大な罪について話すことだと思っている青少年がたくさんいます。しかし、悔い改めはそれだけではありません。悔い改めとは、謙遜に、たゆまず、祈りをもって日々(1)聖文、特にキリストの贖罪について教える聖文を研究し、(2)毎日いつもそれを実際に生活に応用する方法を学ぶということです。悔い改めはそのためにあります。昨日よりも今日もっと善くなりたいと思っていることを、天の御父に毎日伝えてください。

自分はあまり善い人間ではなく、他の人は皆自分よりも優れているとサタンに思わされて、天の御父から遠ざかってしまわないようにしてください。それはまるで、救い主の

んは贖罪について学び、それにどう頼ればいいのかをひとたび分かると、自分に欠点があっても主の愛を感じられるということが分かるようになります。

自分は何者なのか、キリストはどんな御方であって何をしてくださったのかを理解してください。次に、この二つを合わせてください。そうすれば、いつも清くあり、自分自身と天の御父と救い主を信頼できるようになります。そうするとさらに、良い意味で自尊心が持てるようになり、自信がつきます。

若くして改宗したわたしは、やがてこのことが分かるようになり、人生に大きな祝福が与えられました。犠牲を払い、研究し、天の御父に近づこうと努力すれば、御父は同じように皆さんを祝福してくださいます。決して諦めてはなりません。■

## イエス・キリストの贖罪は、 毎日毎時間受けることが できます。

贖罪と愛と承認を目の前に見ていながら、決して手が届かないかのようです。実際はそうではありません。天の御父は今あるがままの皆さんを愛しておられます。しかしもちろん、皆さんは常に、改善を図り、戒めを守って毎日いつでも贖罪を適用するように努めなければなりません。使徒パウロは、「自分を吟味するがよい」と言っています(2コリント13:5)。しかし、皆さ



# 「成長するわたし」で 家系図を調べる

わたしの家族は、兄とわたしだけが教会員です。  
少なくとも、家族歴史活動を始めまではそう思っていました。

ライザ・マルコンデス

**わ**たしは自分の系図を調べるのをいつも先延ばしにしていました。でも、わたしには伝道に出るという望みがあったので、良い宣教師になる準備に役立つ目標を立てることにし、靈感を受けたビショップの助けを受けて、「成長するわたし」に取り組むことにしたのです。その中のある目標と善い行いのプロジェクトを達成するために、系図を調べる必要がありました。そこでわたしは系図に取り組みました。

御霊に導かれていたのが分かります。というのは、ある日曜日の夜、たった3時間調べただけで、驚くべきことが起こったからです。

系図を調べ始めるとすぐに、わたしは高祖父がブラジル、アマゾナス州の知事だったことを思い出しました。そこで、高祖父の名前をオンラインの検索エンジンに入力すると、驚いたことに、高祖父と高祖母の名前がウィキペディア（訳注——インターネット上で自由に編集できる百科事典）のページにあったのです。自分の持つ才能と賜物<sup>たまもの</sup>が先祖にあったことにすぐに気づき、熱いものが込み上げてきました。しかし、発見はそれで終わりませんでした。

ページにあるリンクを見ると、「家系図」というリンクがあるのに気づきました。それをクリックすると、家族の傍系が出てきました。これがあることすら、わたしは知らなかったのです。でも、一番わたしの興味を引いたのは、大おば「ロザリナ・メイレス」という名前です。ユタ州に住んでいるようでした。

わたしは驚きました。兄とわたしだけが教会員だと思っていたのです。本当に親族の中に他に教会員がいるのだろうか。大おばの名前をクリックすると、フェイスブックのページへのリンクがありました。そこで、本人に連絡してみました。すると2日たたないうちに彼女からメッセージが届き、確かにわたしの大おばであって、しかも教会員であることが分かりました。

その瞬間に言いようのない喜びを感じさせてくださったことを、わたしは天の御父に深く感謝しました。

亡くなった先祖の探求はその後も続け、天の御父の祝福によってたくさんの親族の名前を見つけて、神殿に持って行くことができました。しかし、御父は、生きている親族の中に、イエス・キリストの回復された福音に忠実な会員がいることも、知ることができるようにしてくださったのです。これは全て、「成長するわたし」のおかげであり、家族歴史に取り組んだおかげであり、伝道に出たいという望みを持ったおかげでした。■

筆者はブラジル、マナウス在住です。



七十人  
マーカス・B・ナッシュ長老

# スペンサー のための聖文

「神様の愛ある教え 真実の聖文がとても好きです」  
 (「いのりながら言葉読む時」『子供の歌集』66)

つまとわたしが結婚したとき、スペンサー・W・キンボ  
 ル大管長 (1895 - 1985 年) は教会の会員たちに、  
 家族と一緒に聖文を毎日読むようにはげしました。預言者  
 にしたがいだいたいと思ったわたしたちは、ふうふとして、また  
 将来子どもが生まれたら子どもたちと一緒にそうしようと  
 決めました。

何年もすぎて、子どもたちは末の子のスペンサーを入れて  
 5人になりました。

スペンサーが6才のとき、わたしとつまが、子どもたちを  
 ベビーシッターにあずけて数日家をはなれたことがありま  
 した。家にもどり、スペンサーにわたしたちがいない間どう  
 だったか聞いてみました。

スペンサーはなかなかねむれなかったと言いました。なぜ

あまりねむれなかったのか聞いてみると、しばらく考えて、  
 分からないと言いました。

やがて夜になり、いつもどおり家族でモルモン書を読み  
 始めました。

すると突然スペンサーが「これだ!」とさげんだのです。  
 何のことを言っているのかわたしがたずねると、「だから夜、  
 あまりねむれなかったんだよ」と言いました。

「なぜねむれなかったんだい」とたずねると、スペンサー  
 は次のように答えました。

「お父さんとお母さんがいない間、ぼくたちモルモン書  
 を読まなかったんだよ。ぼくは、モルモン書を読むときに感じる  
 気持ちが好きなんだ。」

スペンサーは、毎日聖文を読むことによって、なぐさめや  
 平安、せいいいのみちびきを得られることが分かっていた  
 のです。

毎日聖文を読むときに、聖文を愛するようになります。  
 聖文を愛するときに、せいいいによってみちびかれ、天の  
 お父様によって強められるのです。■



イラスト：タニ・シヨーンズ



十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老

# 父から 学んだ教え

わたしは父から神権のけんのと力について偉大な教えを学びました。

わたしは忠実な母親とすばらしい父親のいる家庭で育ちました。わたしの父は教会員ではありませんでしたが、家族と一緒に教会の集会に来ていました。ワードのソフトボールチームのコーチをしたり、スカウト活動を手伝ったりもしました。

少年のころ、わたしは父にいつバプテスマを受けるのかと毎週何度もたずねました。父は毎回こう答えました。「デビッド、それが正しいことだと分かたら、わたしは教会に入るよ。」

ある日曜日のこと、わたしは父にいつバプテスマを受けるのかとたずねました。父はただほほえんで、わたしにこうたずねました。「デビッド、君の教会では、神権がかつて地上から取り去られ、天の使者によって回復されたとおているよね。もし本当に君の教会に、回復された神の神権があるのなら、君の教会のととても多くの男性たちがわたしの教会の男性たちとあまりちがわないのはどうしてなんだい。」

わたしは頭が真っ白になりました。父にどう答えればよいか分かりませんでした。

神権を持つ男性は、他の男性とはちがった行動をするべきだと分かりました。神権者はただ神権のけんのを受けるだけでなく、神の力を使うために忠実でふさわしくならなければならない。

わたしは父に悪いものはんを見せたくないと決心しました。とにかくよい少年になりたいと思いました。主のけんのを持つ者として、わたしたち全員がいつでもどこでも高潔で、とく高く、善良な男性でいることを、主は求めておられます。

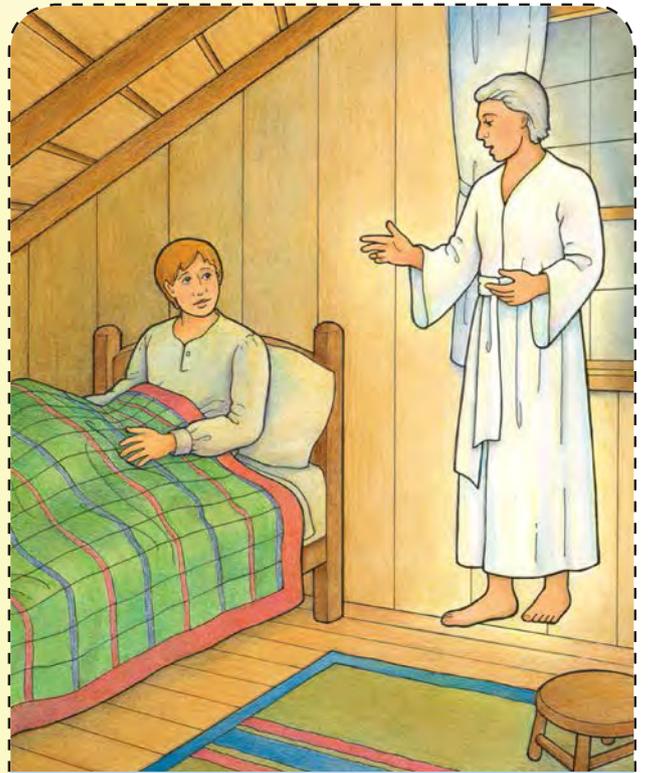
何年も後で、父はバプテスマを受けました。そしてわたしは父にアロン神権とメルキゼデク神権をさずける機会にあずかりました。人生におけるすばらしい経験の一つは、父が神権のけんのと力を受けるのを目にしたことです。■



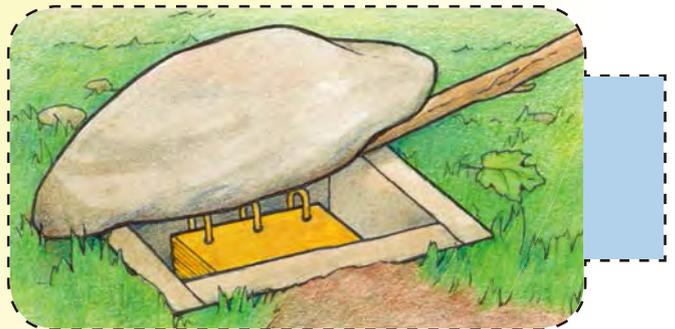
モルモン書、天のお父さまからの おくりもの  
ジョセフ・スミス—歴史 1:29 - 35, 42 - 54, 59 - 60



ジョセフ・スミス



てんし モロナイ



**せ**いふんに どうじょうする じんぶつを 切りとって、のりか セロテープで あつ紙、小さな 紙ぶくろや、ほうに はりましょう。それを ふうとうや ふくろに 入れ、せいくの かしよを 書いておきましょう。

# コルドバ家族とすごした クリスマスイブ

マリシエロもわたしも、  
たった一つのプレゼントしかありませんでした。  
どうやってそれを分け合えばよいのでしょうか。



ハニー・タリア・カベル・ロスノ

本当にあったお話をもとに書かれました。

「わたしの兄弟である  
これらの最も小さい者のひとりにしたのは、  
すなわち、わたしにしたのである。」

(マタイ 25:40)

クリスマスイブになりましたが、わが家の小さなツリーの下には、たった二つのプレゼントしかありませんでした。一つは2才の妹、マリシエロの、そしてもう一つはわたしのでした。「お金がないから、これだけね」とお母さんが言いました。

そのばん、お母さんが『リアホナ』から、プレゼントが一つもなかったクリスマスのお話を読んでくれました。それを聞きながら、わたしは幸せで平安な気持ちを感じました。プレゼントがたった一つしかなくても、それほど大したことではないかもしれません。そのときお母さんが言いました。「クリスマスイブに、いつものようにゲームをするのではなく、ワードの家族にプレゼントを持って行くっていうのはどうかしら。」

「でも、何をあげるの?」とたずねると、「そうね、少しは分けてあげられるものがあるわ」とお母さんは言いました。

わたしは二つのプレゼントを見つめ、それからかべにかかったイエス様の絵を見ました。「きつと、イエス様なら、持っているものを分けてくださるはずね。」

わたしたちは、どの家族を訪問するべきか決めました。その年、わたしたちの知っているたくさん家族が、あまりめぐまれないじょうたいでした。いのちの後、コルドバ家族を訪問するべきだと感じました。3人の子どもがいて、お父さんは仕事がなくなくなったばかりです。

わたしたちはお店に行ってパネトン(クリスマスパン)と、焼いたチキンと、小さなプレゼントを3つ買いました。楽しみながら選びました。お母さんは持っていたお金を全部、ペルーのお金でおよそ30ペソ(約1,000円)使いました。



買い物を終えたわたしたちは、コルドバ家族のところに向かいました。わたしはマリシエロの手を取って、ドアに向かって歩きました。

コルドバしまいがわたしたちを見て、外に出て来てだきしめてくれました。「まあおどろいた。うれしいわ! どうぞ入って、すわってちょうだい」とかのじょは言いました。わたしたちが中に入ると、コルドバしまいはお母さんの手をにぎりしめ、わたしのかたをたたきました。「ローランドもむすめたちも、あなたたちに会えてきつと喜ぶわ」と言ってくれました。

家の中は、ゆかがはられておらず、土間(土がしかれたじょうたい)になっていました。電気もなく、ろうそくしかありません。コルドバ家族のことを考えると、わたしは少し悲しくなりました。もっと助けてあげられたらよかったのと思いました。でもお母さんは、土間もろうそくも目に入っていないようです。ただ、コルドバしまいと一緒にいられてうれしそうでした。

「みなさんにフェリス・ナビダッド(スペイン語で「メリークリスマス」)と伝えたくて来たのよ。」お母さんが言いました。「友達でいられてうれしいわ。」お母さんが食べ物とプレゼ

ントをコルドバしまいにわたすと、しまいはにっこりしてお礼を言いました。

ローランドとマデリーン、そしてラケルが別の部屋から走って来て、あいさつしました。マリシエロはわたしの足にまわりついて、にこにこしていました。ローランドがおかしな顔をしてみせると、マリシエロは声を出して笑いました。すぐに、全員が話したり、冗談を言い合ったり、笑ったりしました。

「自分たちだけでゲームをするより、ずっといいわ」と思いました。来て良かったと思いました。たくさんものを分け合うことができなくても、それで良かったのです。土間でもかまいません。クリスマスは、わたしたちが何を持っているかは関係ないのです。ただ一緒にいることが大切なのです。

帰るじゅんぴができたとき、コルドバしまいはもう一度わたしたちをだきしめて、「本当にありがと」と言ってくれました。声はふるえ、目にはなみだがあふれていました。わたしはつま先立ちをして、コルドバしまいのほおにキスをしました。

「フェリス・ナビダッド」と言いながら。

■ このお話を書いた人はペルーに住んでいます。

# 回復のパズル



回復とは  
どういう意味でしょうか。

## ハイジ・ポールマン

本当にあったお話をもとに書かれました。

「わたしはあなたに神権のかぎと力を  
さずけており、それによって、  
万事を元どおりに[する]。」  
(教義と聖約 132:45)

教会から家に帰る途中で、アナ  
は先生からもらった小さな紙  
切れのことを思い出しました。「お  
母さん、聞いて！ わたしね、今度の日  
曜日に初等協会でお話するの。」

「それはすてきね」とお母さん。  
「何について話すの？」

「回復について話さなきゃいけない  
のだけれど、それがどんなことか、よく  
わからないの。」

「回復というのは、神様がご自分の  
教会にあってほしいものを元にもどし  
てくださった、ということよ」とお母さん  
が説明してくれました。「預言者  
ジョセフ・スミスを通して、神殿や神権、  
バプテスマやせいれいのたまものをも  
ととってくださったの。回復がなければ、  
教会もなかったのよ。」

アナはうなずきました。「そういう

ことなのね。でも、わたしにはお母さん  
みたいには説明できないと思うな。」

「そうだ、いい考えがあるわ。」家に  
着くと、お母さんが言いました。「一緒  
に来て。」

アナはお母さんの後についてリビ  
ングに行きました。昨日の夜、みんな  
でやり始めたパズルが、小さなテーブル  
の上はまだ散らばっていました。

「福音は、完成したパズルだと思っ  
たらいいわ。」お母さんはそう言って、  
一つのピースを手に取りました。「パ  
ズルのたくさんのピースが、いろい  
ろな時代に地上にあったのだけれど、  
イエス様と使徒たちがなくなった後、  
たくさんの福音の真理が失われたり、  
変えられたりしてしまったのね。だか  
ら、そのピースをもう一度元にもどす  
必要があったの。」

「それで何があったの？」アナはバラ  
バラになったピースをまぜました。

「長い時間がたった後、神様はすべ  
てのピースを元にもどして、イエス様  
がこの地上におられたときのように  
またパズルを合わせるために、一人の

わかい農家の少年をめされたの。それ  
はだれだったと思う。」

「ジョセフ・スミスね。」ここにこしな  
がら、アナが答えました。「何となく、  
分かり始めた気がするわ。」アナと  
お母さんは、ジョセフ・スミスや、神様  
がジョセフ・スミスを通して元にもど  
してくださったいろいろなピースにつ  
いて、もっと話しました。

その週、アナはお話を書いて練習  
しました。勇気をもって初等協会で  
お話ができるように、天のお父様にい  
のりしました。

日曜日、アナのお話の時間になりま  
した。アナは立ち上がり、深ききゆうを  
すると、みんなに見えるようにホワイト  
ボードにパズルをはりました。パズルに  
はすべてのピースがはまっていました。

「昔、福音の大切なピースがたくさん  
地上にありましたが、イエス様や使  
徒たちがなくなったとき、なくなってし  
まったピースがありました。」アナは  
そう言いながら、パズルのいくつかの  
ピースを外して、下に置きました。  
「それから、天のお父様とイエス様は



かいふく よげんしゃ  
回復の預言者

「ジョセフは神の御手に使われる者となり、神聖な聖典や失われていた教義を世に送り出し、さらに神権を回復しました。」

じゅうに使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老

「ジョセフ・スミス」

「リアホナ」2014年11月号, 28

なくなってしまった福音のピースをもどすために、ジョセフ・スミスを預言者としてめされたのです。これを回復とよびます。」 アナは、一つのピースを手にとって、みんなに見せました。そのピースのうらには、「神権の力」と書かれていました。

それから、アナは他のピースも見せました。一つ一つのピースのうらに書

かれている言葉を読んでから、パズルにはめていきました。「生ける預言者……十二使徒……永遠の家族になるための神殿のわぎ……水にしずめるバプテスマ……せいのたまものをさずけるための按手。」

アナは完成したパズルを持ち上げて見せました。「これで福音のすべてのピースがそろいました。それはつまり、

どうしたら幸せになれるかや、いつかもう一度天のお父様と一緒に住むにはどうすればよいかについて、全体ぞうを見ることができるといことです。わたしは回復に感謝しています。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。」■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

# イエス・キリストの さいりん

エリン・サンダーソン

クリスマスには、世界中の人が救い主イエス・キリストの降誕をお祝いします。わたしたちはいつか、また別のすばらしい日をお祝いすることになります。それは、イエスが地上にもどって来られる、さいりんの日です。預言者たちは、イエスがもう一度来られる前にどんなことが起こるかについて教えてきました。その一つは、イエスの福音が世界中に伝えられることです。

天のお父様とイエス・キリストを信じることで、世の中でこわいと思えるようなことが起こるときにも、平安を感じるすることができます。

イエスはこう言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたにあた

える。わたしがあたえるのは、世があたえるようなものとはことなる。あなたがたは心をさわがせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14:27)

今年のクリスマスに、みなさんがイエスについて考えるとき、イエスはいつかもう一度この地上に来られること、そして赤ちゃんとしてでなく、王の王として来られることを思い起こしてください。そのときすべての人が、イエス・キリストは神のひとり子であり、世の救い主であられることを知るでしょう。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



## もっと知る

イエスがもう一度来られるとき、1,000年間地上で統治されます。この期間を福千年とよびます。福千年の間、人々はとてもしなやかなじょうたいになり、サタンはゆうわくすることができません。悲しみもなく、キリストにしたがう人々は平安と幸福を感じます。

## 家族で話し合しましょう

たから物とは、特別でとてもかちのある物であり、大切にする必要があります。ジョセフ・スミス—マタイ 1:36-37 を読みましょう。キリストの言葉を「大切にたくわえる」ことで、どのようにイエスのさいりんにそなえることができるかについて話し合しましょう。キリストの言葉はどこに書かれていますか。

歌——「主の来られる時」(『子供の歌集』46)

せいく——ヨハネ 14:27

ビデオ—— Biblevideos.org で、「大きな喜びのおとずれ——イエス・キリストの誕生」を見ましょう。

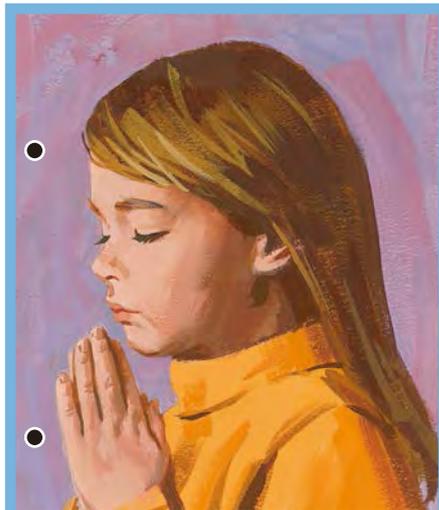
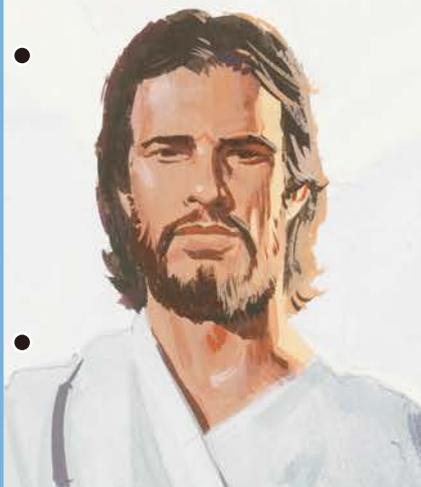
わたしは

じゅんびすることができます

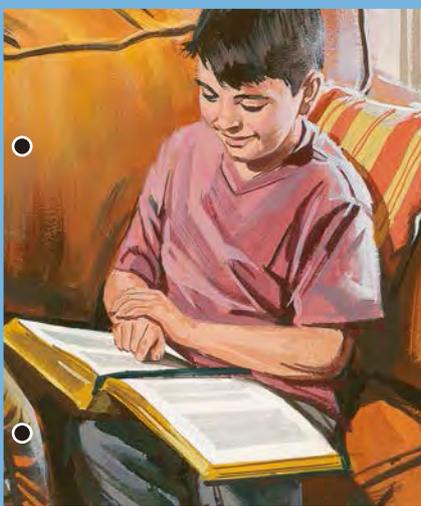
イエスがもう一度来られるときのためのじゅんびとして、今できることを思い出せるように、パンフレットを作りましょう。

カードを切り取って、束にします。二つのあなたにひもを通して結びます。

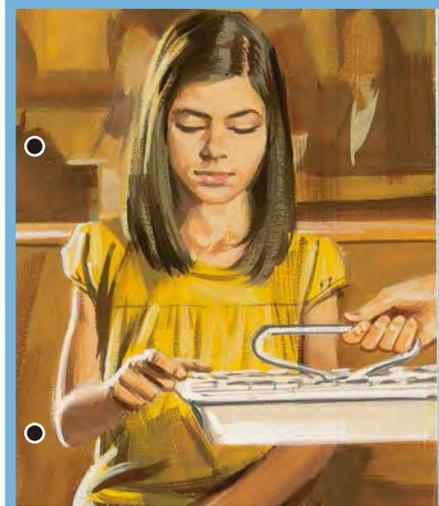
わたしはイエスのさいりんに  
そなえることができます



毎日いのることができます。



聖文を読むことができます。

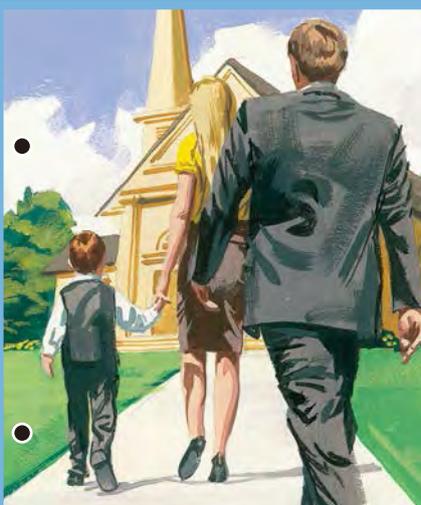


バプテスマの聖約を守ることができます。

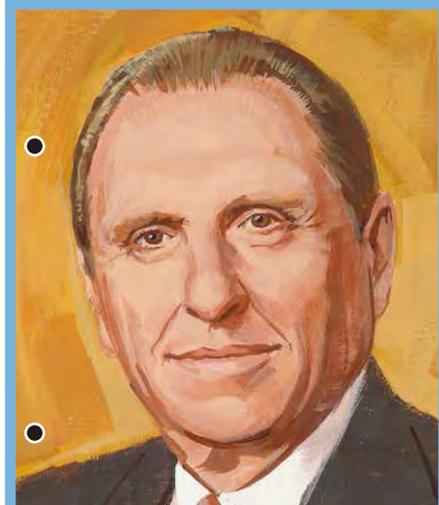
せいぶん  
聖文のヒント

せいぶんをもっとよく理解するために  
3つの方法があります。

1. 聖文を読み始める前に、理解できるように天のお父様に助けをいのり求める。
2. 読んだことについて考える時間を取る。
3. 分かったことや感じたことについてだれかに話したり、日記に書いたりする。



いましめを守ることができます。



預言者にしたがうことができます。

# イエスの たんじょうの ものがたり

むかし、マリヤという <sup>なまえ</sup>名前の <sup>おんな</sup>女の <sup>ひと</sup>人と、  
ヨセフという <sup>なまえ</sup>名前の <sup>おとこ</sup>男の <sup>ひと</sup>人が、けっ  
こんしようと していました。マリヤと ヨ  
セフは よい <sup>ひと</sup>人で、かみさまが <sup>じぶん</sup>自分た  
ちに してほしいと <sup>おも</sup>思っておられることを  
しました。



ある日、<sup>ひ</sup>てんしが マリヤの もと  
に <sup>き</sup>来て、マリヤに <sup>あか</sup>赤ちゃん  
が <sup>う</sup>生まれると <sup>い</sup>言いました。  
てんしは マリヤに、<sup>あか</sup>赤ちゃんを  
イエスと <sup>な</sup>名づけるように <sup>い</sup>言い  
ました。赤ちゃんは、かみの  
<sup>あか</sup>おん子であり、すくいぬしと なる  
おかたであると <sup>はな</sup>話しました。



マリヤと ヨセフは ぜいきんを おさめるために、ベツレヘムという <sup>まち</sup>町に  
たびを しなければ なりませんでした。



<sup>まち</sup>町には <sup>ひと</sup>人が た  
くさん いました。  
マリヤと ヨセフが  
とまれる へやは  
ありませんでした。  
そこで マリヤと  
ヨセフは、どうぶつ  
を かうための  
ばしょに とまり  
ました。その夜  
おさな<sup>こ</sup>子 イエス  
が お生まれ<sup>う</sup>に  
なりました。

あたら ほしい そらに  
新しい 星が 空に  
あらわれました。



ちか の 野原で、ひつじかいが ひつじの  
番を していました。てんしが やって来て、  
ひつじかいたちに すくいぬしが お生まれ  
になったと 話しました。ひつじかいたちは  
ベツレヘムへ 行き、そこで おさな子  
イエスに 会い、れいはいしました。



とお 遠くの ちで、はかせたちが 新たな 新しい  
星を 見ました。はかせたちは、それは  
すくいぬしが お生まれになった しるし  
だと 知りました。はかせたちは、星に  
したがって 行き、イエスを 見つけ  
ました。はかせたちは、イエスに おくり  
ものを ささげて、れいはいしました。



はかせたちが 行ってしまっ  
た後、てんしが ヨセフを  
おとずれました。てんしは、  
わるい 王さまが イエスを  
ころそうとしていると 話し  
ました。てんしは、ヨセフに  
かぞくを あんぜんに まもる  
ために、エジプトに 行く  
ように 話しました。





ヨセフと マリヤと イエスは、イスラエルに もどっても あんぜんになるまで、エジプトに いました。イエスは、ナザレ という 町<sup>まち</sup>で せいちょうしました。イエスは、よく 人<sup>ひと</sup>を たすけ、親切<sup>しんせつ</sup>で、じゅうじゅんで あるように 学<sup>まな</sup>びました。すくいぬしになるために 学<sup>まな</sup>ぶ ひつようの あることを すべて 学<sup>まな</sup>びました。イエスは かみさまが よういしてくださった 計<sup>けい</sup>画<sup>かく</sup>に いつも したがいました。



わたしたちは、クリスマスに、イエス・キリストの こうたんを おいわいします。イエスの  
こうたんの ものがたりに どうじょうした <sup>ひとびと</sup> 人人の <sup>え</sup> 絵を ゆびさしましょう。

わたしたちは、かみさまから のぞまれていることを することによって、マリヤとヨセフ  
のように なれます。

わたしたちは、イエス・キリストに したがうことによって、ひつじかいやはかせたちの  
ように なれます。

わたしたちは、クリスマスの <sup>ほんとう</sup> 本当の ものがたりを <sup>ひとびと</sup> 人人に <sup>はな</sup> 話すことによって、てんし  
のように なれます。

わたしたちは、イエスの もはんに したがうことによって、イエスのように なれます。■

#### せいぶんから

マタイ1:18-25;2しょう:ルカ1:26-38;2:1-20のクリスマスの<sup>ものがたり</sup>物語を読みましよう。



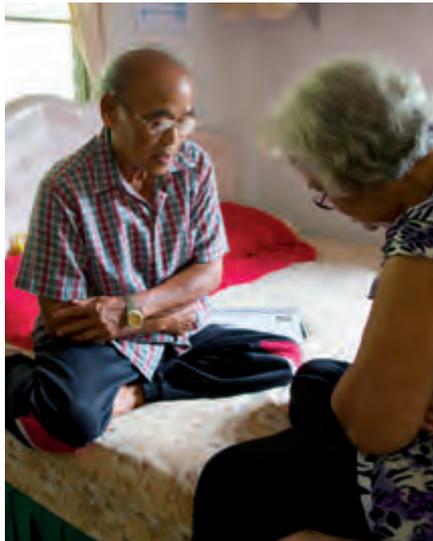
第14代大管長  
ハワード・W・  
ハンター大管長  
(1907 - 1995年)

## 本当の クリスマス

キリストを生活の中に迎える人には  
本当のクリスマスがやって来ます。

パウロはガラテヤ人に宛てた短い手紙の中で、彼らが明らかに不信心であり、キリストについての教えを捨ててしまっていることについて深く心を痛めていることを示しました。こう記しています。「わたしがあなたがたの所にいる時だけでなく、いつも、良いことについて熱心に慕われるのは、良いことである。ああ、わたしの幼な子たちよ。あなたがたの内にキリストの形ができるまでは、わたしは、またもや、あなたがたのために産みの苦しみをする。」(ガラテヤ4:18 - 19) 言葉を換えると、彼らの内にキリストが形作られるまで、パウロは苦しみ、また心配すると言ったのです。パウロが手紙の中で繰り返し使っている「キリストにあって」という言葉を言い換えたものです。

キリストは人々の生活の中に生まれ、その人の生活の一部となることがおできになります。それが実際に起きるときに、人は「キリストにあって」、その人の中にキリストが形作られるのです。そのためには、キリストを生活の中に迎えて、キリストの影響を受けながら生活する必要があります。



キリストは単なる歴史上の真理や事実にとどまる御方ではありません。あらゆる地に住む、あらゆる時代の人々にとっての救い主です。キリストのようになる努力をするときに、わたしたちの内にキリストの形ができます。わたしたちが扉を開くならば、キリストは入って来られます。キリストに助言を求めるなら、与えてくださいます。わたしたちの内にキリストの形ができるには、キリストとその贖い<sup>あがな</sup>を信じなければなりません。キリストに信仰を持ち、戒めを守ることは束縛ではありません。そうすることで人は自由になるのです。この平和の君は心の平安を与えようと待っておられます。わたしたち一人一人が平和をもたらず手段となるためです。

キリストを感動と躍動と活力の源として生活の中に迎える人に、本当のクリスマスはやって来ます。

ジェームズ・ウォーリングフォードはクリスマスについてこのような詩を詠みました。

クリスマスはその日や季節ではなく、  
心と思いの有りようを指す  
もし自分のように隣人を愛するなら  
もし富んでいるときに心がへりくだり、  
貧しいときに深い思いやりを示す  
なら  
もし高ぶることのない愛を持ち、寛容  
であり、情け深くあるなら  
兄弟からパンを求められたときに、  
全てを差し出すなら ——もし朝  
ごとに機会が訪れ、僅かでも成し  
遂げてその日を終えるなら……  
毎日がキリストの日であり、クリス  
マスはいつでも目の前にあるのだ  
(チャールズ・L・ウォリス編, *Words  
of Life* [1966年], 33)

クリスマスの真の精神を見だし、そのすばらしさを味わいたいと思うなら、次のことを実行してみるよう提案します。今年、クリスマスの慌ただしい時期を迎えるときに、神に心を向ける時間を見つけてください。できれば静かな時間に、静かな場所へ行ってひざまずき、一人であるいは愛する人と一緒に、与えられた祝福に感謝をささげます。それから、神に仕え、神の戒めを守るよう熱心に努力するとき、神の御霊<sup>みたま</sup>を受けられるよう願い求めます。神は皆さんの手を取って導かれ、その約束は果たされることでしょう。■

「ほんとうのクリスマス」『リアホナ』2005年12月号、12 - 15より

# 洞 察



ブラジル、ナタールの会員たち

**安息日を喜びの日とするために、何ができるでしょうか。**

「安息日は家族のきずなを強めるすばらしい機会です。……自分の子供たちに福音を教えるとき、安息日は喜びの日となります。……家族との時間の他に、家族歴史活動から安息日の本当の喜びを味わうことができます。……他の人々、特に、体調の良くない人々や、孤独な人々、あるいは困っている人々に奉仕することによって、安息日を喜びの日としてください。」

# 今月号のその他の記事

## ヤングアダルト

### 伝道からの**早期**帰還

家に戻って来てから、わたしは自分の証<sup>あかし</sup>について悩みました。  
でも最終的には、答えがなくとも忠実であり続けることを天の御父に約束しました。



44  
ページ

## 青少年



60  
ページ

### 若い改宗者として **学んだこと**

教会に17歳で入り、町で自分だけがこの言語を話す会員であることを想像してみてください。七十人のクレビンガット長老がそのような状況の中で学んだことについて、読んでみましょう。

## こども

### イエスの たんじょうの ものがたり

6ページのイラストで書かれた、おさな子  
イエスのたんじょうのものがたりを  
あじわい  
ましょう。



74  
ページ

末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

JAPANESE



12572 300

8